

審査意見（6月）（資料）

資料目次

【説明資料1】長崎県立大学大学院地域創生研究科地域創生専攻 （博士後期課程）人材養成方針及び3ポリシー新旧対照表	1
【説明資料2】授業科目の概要及びシラバス新旧対照一覧	7
【説明資料3】長崎県立大学大学院地域創生研究科地域創生専攻（博士後期課程） カリキュラム・マップ新旧対照一覧	34

長崎県立大学大学院 地域創生研究科 地域創生専攻(博士後期課程)人材養成の方針 新旧対照表

	新	旧
専攻	<p>俯瞰的かつ多面的な視点を持ち、領域横断的な専門応用力を備えた人材を養成するという本学修士課程の目標に対して、地域創生専攻博士後期課程では、修士課程で培った専門知識と技術を一層高度化させ、自らの専門領域の高度な研究能力を身に付け、さらに他領域との連携を図る視点を養うことで本学独自の教育・研究体制による地域貢献に資するための高度な知識を修得させる。同時に学術研究において高い水準の先端研究を自立して行える能力を身に付けることで、高い倫理性と豊かな国際性を併せ持った自立した高度な研究能力を有する人材を養成することを主たる目標とする。・・・</p>	<p>俯瞰的かつ多面的な視点を持ち、領域横断的な専門応用力を備えた人材を養成するという本学修士課程の目標に対して、地域創生専攻博士後期課程では、修士課程で培った専門知識と技術を一層高度化させ、自らの専門領域の高度な研究能力を身に付け、さらに他領域との連携を図る視点を養うことで本学独自の教育・研究体制による地域貢献に資するための高度な知識を修得させる。同時に学術研究において高い水準の先端研究を自立して行える能力を身に<u>つける</u>ことで、高い倫理性と豊かな国際性を併せ持った自立した高度な研究能力を有する人材を養成することを主たる目標とする。・・・</p>
地域社会マネジメント分野	<p>地域社会の発展に関する最新の知識や技術に関する実践的知見を持ち、様々なメディアやネットワークを駆使してグローバル社会の諸問題を科学的に把握し、地域産業、地域経営、地域計画、メディア社会、グローバル社会などの専門的見地から地域の課題を整理して、課題の解決に向けて具体的方策を提案することができる研究能力を有する地域リーダーを養成する。また、地域情報工学分野及び人間栄養健康科学分野の課題に対する社会科学的な基盤となる、持続可能な地域社会の形成を可能とする高度な研究能力や政策立案力の涵養も目的とする。・・・</p>	<p>地域社会の発展に関する最新の知識や技術に関する実践的知見を持ち、様々なメディアやネットワークを駆使してグローバル社会の諸問題を科学的に把握し、<u>地域社会、地域産業、地域計画、地域経営</u>などの専門的見地から地域の課題を整理して、課題の解決に向けて具体的方策を提案することができる研究能力を有する地域リーダーを養成する。・・・</p>
地域情報工学分野	<p>地域社会マネジメント分野及び人間栄養健康科学分野の課題に対する情報工学的な基盤となる、サイバー空間及びその膨大なデータ（ビッグデータ）の処理を実現する高度な研究能力や技術開発力を有する人材を養成する。すなわち、先進的情報基盤技術を用い、地域産業やその就労形態及び生活様式を革新する能力、また、データと人間の関係性に価値創造を起こす能力を涵養し、研究・開発分野を深耕する高度な研究能力を有する人材を養成する。</p> <p>具体的には、インターネット基盤を想定したサプライチェーン、工場を含む制御システム、IoT機器などを有機的に連携させる設計・構築技術、暗号化や本人認証とプライバシー保護の技術とセキュリティインシデントオペレーションのノウハウを活用し、信頼される地域社会の活性化や健康増進の情報基盤を築く高度な研究能力や技術開発力を有する人材を養成する。・・・</p>	<p>地域社会マネジメント分野及び人間栄養健康科学分野の課題に対する情報工学的な基盤となる、サイバー空間及びその膨大なデータの処理を実現する高度な研究能力や技術開発力を有する人材を養成する。すなわち、先進的情報基盤技術を用い、地域産業やその就労形態及び生活様式を革新する能力、また、データと人間の関係性に価値創造を起こす能力を涵養し、研究・開発分野を深耕する高度な研究能力を有する人材を養成する。</p> <p>具体的には、インターネット基盤を<u>商流や制御システム及び生体管理の枠組みへ組み込む設計技術</u>、暗号化や本人認証とプライバシー保護の技術、<u>またセキュリティインシデントオペレーションのノウハウ</u>を活用し、地域社会の活性化や健康増進の情報基盤を築く高度な研究能力や技術開発力を有する人材を養成する。・・・</p>
人間栄養健康科学分野	<p>生命科学と栄養科学の本質に迫る基礎栄養科学領域やヒトの栄養状態と健康維持・増進に関する実践栄養科学領域において高度な研究能力や実践的能力を有し、健康の保持・増進や質の高い食生活、栄養状態の改善などを科学的に理解・追究することにより地域社会に貢献できる人材を養成する。また、地域の特性を生かした食品開発を実践することで、島嶼を含む地域活性化に資する研究テーマにも重点を置く。さらに、地域の健康増進施策を推進するためには、栄養健康科学分野だけにとどまらず、個人の生活環境や遺伝的素因など多岐にわたる関連性の解明など、様々な情報やデータを収集・解析する能力も必要となることから、地域連携をマネジメントする能力や最新の情報処理能力をもつ人材の養成も必要となる。</p> <p>これらの人材は、大学等教育研究機関の研究者・教育者あるいは企業等の研究開発部門や行政機関等での高度専門職としての活躍が期待される。</p>	<p>生命科学と栄養科学の本質に迫る基礎栄養科学領域、<u>実践科学としての人間栄養学の社会的貢献を視点とした実践栄養科学領域の2つの領域についての教育・研究を通し、食と健康科学の統合化を踏まえ、その最新かつ高度な知識や実践的能力を持ち、健康の保持・増進や質の高い食生活、栄養状態の改善などを科学的に理解・追究することにより社会に貢献できる高度専門職業人の養成ならびに教育研究指導者の養成に取り組む。</u>また、<u>本学は地域に根ざした公立大学であることに鑑み、地域の特性を生かした食品開発を実践することで、島嶼を含む地域活性化に資する研究テーマにも重点を置いて、学生の指導や人材の養成を行う。</u>さらに、健康増進施策を推進するためには、健康科学分野だけにとどまらず、個人の生活環境や遺伝的素因など多岐にわたる<u>関連性との解明が重要で、地域や個人に対応するためには、様々な情報やデータを収集・解析する能力も必要となることから、地域連携をマネジメントする能力や最新の情報処理能力をもつ人材の養成も必要となる。</u></p> <p>これらの人材は、大学等教育研究機関の研究者・教育者あるいは企業等の研究開発部門や行政機関等での高度専門職としての活躍が期待される。</p>

長崎県立大学大学院 地域創生研究科 地域創生専攻(博士後期課程)ディプロマ・ポリシー 新旧対照表

	新	旧
専攻	<p>地域創生専攻博士後期課程では以下の能力を有し、所定の単位を修得した者に博士の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自らの専門分野に関する高度な知識や技術を身に付け、課題を把握し分析する能力と、課題の解決に向けて遂行できる能力 2. 地域社会の種々の課題解決に向けて、自らの専門分野だけでなく、他分野の専門知識を一定程度身に付け、広い視野に立って他分野の専門家と協働できる能力 3. 高度な専門研究を推進し、自らの研究成果を国内外に発信できる能力 	<p>地域創生専攻博士後期課程では以下の能力を有し、所定の単位を修得した者に博士の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自らの専門分野に関する高度な知識や技術を身に<u>つ</u>け、課題を把握し分析する能力と、課題の解決に向けて遂行する能力 2. 地域社会の種々の課題解決に向けて、自らの専門分野だけでなく、他分野の専門知識を一定程度身に<u>つ</u>け、広い視野に立って他分野の専門家と協働できる能力 3. <u>自らの研究成果を国内外に発信し、高度な専門研究を推進</u>できる能力
地域社会マネジメント分野	<p>地域社会マネジメント分野では以下の能力を有し、所定の単位を修得した者に博士の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 持続可能な地域社会を形成するうえでの諸課題を、地域産業、地域経営、地域計画、メディア社会、グローバル社会などの専門的見地から分析し、解決に向けて研究を遂行できる能力 2. 地域資源を有機的に結合する多様なネットワークの形成に向けて、地域社会マネジメント分野における専門的知識の獲得に加え、地域情報工学分野や人間栄養健康科学分野の課題にも目を向け、他分野の専門家と協働し、かつマネジメントできる能力 3. 広い視野と長期的な展望のもとで高い倫理性と責任感を持って高度な専門研究を推進し、自らの研究成果を国内外に発信できる能力 	<p><u>本分野では、「地域社会」に関わる最新の知識や実践的技術を持ち、さらに様々なメディアやネットワークを駆使したグローバル社会の諸問題などを科学的に理解・追及し、専門領域の学術レベルの向上に資することにより、次に掲げる知識や能力を有する人材を養成する。</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. <u>地域社会、地域産業、地域計画、地域経営などに関する専門的な理解を通じて地域の諸課題を整理し、定量的・定性的に分析して課題の解決に向けて提案する能力</u> 2. <u>地域資源の有機的な結合を可能にするネットワークの形成に向けて高度に専門的な知見を獲得し、その構築を可能とする能力</u> 3. <u>広い視野と探求及び長期的な展望のもと、グローバルな地域社会における様々な組織の環境適応を可能にする高度な分析及び提案能力</u>
地域情報工学分野	<p>地域情報工学分野では以下の能力を有し、所定の単位を修得した者に博士の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 持続可能な地域社会を形成するうえでの諸課題を、情報基盤の設計・構築と安定運用の技術、人間情報科学の分析によるヒューマンインターフェース等の技術、データベースとデータ解析などの技術から分析し、解決に向けて研究を遂行できる能力 2. 地域課題の解決に向けて、地域情報工学分野における専門的知識の獲得に加え、地域社会マネジメント分野や人間栄養健康科学分野の課題にも目を向け、他分野の専門家と協働し、かつマネジメントできる能力 3. 広い視野と長期的な展望のもとで高い倫理性と責任感を持って高度な専門研究を推進し、自らの研究成果を国内外に発信できる能力 	<p><u>本分野では、情報基盤の設計・構築と安定運用の技術、人間情報科学の分析によるヒューマンインターフェース等の技術、またデータベースとデータ解析による知見抽出等の技術を追及し、専門領域の学術レベルの向上に資することにより、次に掲げる知識や能力を有する人材を育成する。</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. <u>情報工学の専門家として情報社会における課題を自ら発見し、解決や価値創造を遂行する能力</u> 2. <u>情報工学において広い視野に立った学術的価値や社会的価値のある新たな発見をし、評価する能力</u> 3. <u>国内外の実務家や研究者とコミュニケーションを取り、研究開発の意見交換や共同研究のネットワークを構築し、自ら発信する能力</u>
人間栄養健康科学分野	<p>人間栄養健康科学分野では以下の能力を有し、所定の単位を修得した者に博士の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 持続可能な地域社会を形成するうえでの諸課題を、栄養、食生活、運動、医療などの専門的知見から分析し、解決に向けて研究を遂行できる能力 2. 地域課題の解決に向けて、栄養健康科学領域における専門的知識と技術の獲得に加え、地域社会マネジメント分野や地域情報工学分野の課題にも目を向け、他分野の専門家や研究者と協働し、かつマネジメントできる能力 3. 広い視野と長期的な展望のもとで高い倫理性と責任感を持って高度な専門研究を推進し、自らの研究成果を国内外に発信できる能力 	<p><u>本分野では、「食と健康」に関わる最新かつ高度の知識や実践的能力を持ち、さらに健康の保持・増進や質の高い食生活、栄養状態の改善などを科学的に理解・追及し、専門領域の学術レベルの向上に資することにより、次に掲げる知識や能力を有する人材を養成する。</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「食と健康」に対し、栄養、食生活、運動、医療に関する専門的知識や技術を修得して、基礎栄養科学分野や実践栄養科学分野等において国際的なレベルで高度な専門研究を推進できる研究者としての能力 2. 健康の保持・増進の視点に立ち、次世代の専門業務を担う人材を育てる管理栄養士養成施設等の高等教育研究機関の教育研究指導者としての能力 3. 保健・医療・福祉分野で活躍できる専門業務を担う人材としての高度な知識を有し、実践できる能力及びこれらの職域で指導者（責任者）として人材教育ができる能力

長崎県立大学大学院 地域創生研究科 地域創生専攻(博士後期課程)カリキュラム・ポリシー 新旧対照表

	新	旧
専攻	<p>1. 地域創生専攻博士後期課程の教育課程は、『専攻共通科目』『専門科目』『研究指導科目』から編成する。 「地域社会マネジメント分野」「地域情報工学分野」「人間栄養健康科学分野」における、学際的な知識や技術を身に付けることを目的として、他分野の学生と共修・協働しながら地域課題解決の方策について理解を深めるため、『専攻共通科目』を必修として配置する。『専攻共通科目』は、専攻のディプロマ・ポリシー1及び2の育成に寄与する。 『専攻共通科目』の成績評価は、レポートやディスカッション、プレゼンテーション等により行う。</p> <p>2. 各分野の高度専門的な知識や理論を修得し、それらを活用して地域課題に取り組む学術的専門性の涵養を目的として、各分野に複数の『専門科目』を配置する。 各分野相互の緊密な連携のもとにそれぞれの領域を補完しあうために、他分野における『専門科目』の履修も可能とする。 『専門科目』は、専攻のディプロマ・ポリシー1の育成に寄与する。</p> <p>3. 専門的な研究遂行能力を養い、学位論文作成を可能にするために、研究指導教員による『研究指導科目』を必修として配置する。学位論文作成の進捗状況に合わせ、きめ細かな指導ができるよう3年間を通じて「特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」と、継続的に配置する。 『研究指導科目』は、専攻のディプロマ・ポリシー1～3の育成に寄与する。</p> <p>4. 専攻における授業科目の成績評価は、学修成果の到達目標（シラバスに記載）に対する達成度について、客観的な成績評価基準に基づいて行い、成績が一定の水準に達したと認めた場合に、所定の単位を認定する。</p> <p>5. 学生の研究計画及び専門科目等の履修計画、学生自身の学びのニーズから、学生と指導教員の協議により必要と判断した場合、修士課程の地域社会マネジメント専攻、情報工学専攻、人間健康科学専攻の科目の履修を推奨する。</p>	<p>地域創生専攻博士後期課程の教育課程は、「専攻共通科目」「専門科目」「研究指導科目」から編成する。 「地域社会マネジメント分野」「地域情報工学分野」「人間栄養健康科学分野」における、学際的な知識や技術を身につけるため、他分野の学生と共修する専攻共通科目を必修として配置する。「アカデミックスキル特講」では、複雑多様化する地域社会の諸問題に対して、高度な専門的知識を備え、さらに、異なる専門領域と協働することで問題解決を図ることができる研究者として望ましい倫理規範を身に付ける。「地域創生学特講」では、これまで培った専門知識と技術を一層高度化させ、かつ、地域経済、経営、メディア、情報工学、栄養健康科学分野の知識を幅広く活用して・活用して地域貢献に資するための方策を修得する。「地域創生学演習」では、「地域創生学特講」で学んだ内容を基に、地域社会マネジメント分野、地域情報工学分野、人間栄養健康科学分野にまたがる実際あるいは想定される具体的な課題に対して、解決するための方策の立案方法や評価方法を修得させる。専攻共通科目は、専攻のディプロマ・ポリシー「2.地域社会の種々の課題解決に向けて、自らの専門分野だけでなく、他分野の専門知識を一定程度身につけ、広い視野に立って他分野の専門家と協働できる能力」の育成に寄与する。</p> <p>各分野の高度専門的な知識や技術を身につけるため、各分野に複数の専門科目を配置する。さらに、各分野相互の緊密な連携のもとにそれぞれの領域を補完しあうために、他分野の科目を履修できるようにする。専門科目は、専攻のディプロマ・ポリシー「1.自らの専門分野に関する高度な知識や技術を身につけ、課題を把握し分析する能力と、課題の解決に向けて遂行する能力」の育成に寄与する。</p> <p>研究指導科目には、専門的な研究遂行能力を養い、学位論文の作成を可能にするために、研究指導教員による特別研究を配置する。学位論文作成の進捗状況に合わせ、きめ細かな指導ができるように、3年間を通じて「特別研究Ⅰ」、「特別研究Ⅱ」、「特別研究Ⅲ」と継続的に履修するように編成する。研究指導科目は、専攻のディプロマ・ポリシー「1.自らの専門分野に関する高度な知識や技術を身につけ、課題を把握し分析する能力と、課題の解決に向けて遂行する能力」及び「3.自らの研究成果を国内外に発信し、高度な専門研究を推進できる能力」の育成に寄与する。</p>

長崎県立大学大学院 地域創生研究科 地域創生専攻(博士後期課程)カリキュラム・ポリシー 新旧対照表

	新	旧
地域社会マネジメント分野	1. 地域社会マネジメント分野における研究者、教育者、高度専門職業人を養成するため、『専門科目』と『研究指導科目』を配置する。	1. 地域社会マネジメント分野におけるより高度な専門的職業人、研究者及び教育指導者を育成するために、『専門科目』と『研究指導科目』を配置する。
	2. 研究及び学位論文作成を支援するため、『専門科目』として地域マネジメント及び地域システムの高度な知識と理論の修得とそれらを活用して地域課題に取り組む学術的専門性の涵養を目的として、「地域マネジメント特講」と「地域システム特講」を配置する。 『専門科目』は、地域社会マネジメント分野のディプロマ・ポリシー1に直結するもので、地域社会マネジメント分野の教員がオムニバス方式で講義を実施することで、本分野で取り扱う全体的な教育・研究内容について理解を深める。 『専門科目』の成績評価は、レポートやディスカッション等を重視して行う。	2. 博士論文研究を支援するために、『専門科目』として地域マネジメント及び地域システムの高度な知識と理論を修得することを目的とした「地域マネジメント特講」と「地域システム特講」を配置する。 専門科目は、地域社会マネジメント分野のディプロマ・ポリシーのうち「1.地域社会、地域産業、地域計画、地域経営などに関する専門的な理解を通じて地域の諸課題を整理し、定量的・定性的に分析して課題の解決に向けて提案する能力」及び「2.地域資源の有機的な結合を可能にするネットワークの形成に向けて高度に専門的な知見を獲得し、その構築を可能とする能力」に直結するもので、地域社会マネジメント分野博士後期課程に在籍する全教員がオムニバス方式で講義を実施し、レポートのみならず講義中のディスカッションも重視して評価を行う。受講生が2校地におよぶ場合等は遠隔授業方式（メディア授業）を採用し、学生の移動にともなう時間的な負担を解消する。 また、地域創生専攻として分野を横断した研究を促進するため、地域情報工学分野及び人間栄養健康科学分野における科目の履修も可能とする。
	3. 地域社会マネジメント分野におけるより高度な専門的知識及び研究開発を可能とする能力を養成するため、『研究指導科目』として「特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を配置する。 『研究指導科目』では、研究指導教員の指導のもと、研究課題を設定し、研究計画を立案、研究方法の展開、データ収集、データ解析などを行い、地域社会マネジメント分野を探究する学術論文及び博士論文の作成に取り組む。 また、各専門分野の最新の研究成果を掲載した学術論文を精読・理解して、博士論文の研究にふさわしいよりレベルの高い知識を修得し、研究成果発表方法や学術誌への原稿作成方法をより深く修得する。 『研究指導科目』は、地域社会マネジメント分野の3つのディプロマ・ポリシーを総合的に実現するもので、成績評価は研究課題に取り組む姿勢とその理解度および成果（学位論文内容及び最終試験、学会発表、論文投稿・掲載など）から研究指導教員が総合的に評価する。	3. 地域社会マネジメント分野におけるより高度な専門的知識及び研究開発するための能力を『研究指導科目』で養成するために、「特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を配置する。具体的には、研究課題を設定し、研究計画を立案、研究方法の展開、データ収集、データ解析などを行い、地域社会マネジメント分野を探究する学術論文および博士論文の作成に取り組む。また、ゼミ形式により、各専門分野の最新の研究成果を掲載した学術論文を精読・理解して、博士論文の研究にふさわしいよりレベルの高い知識を修得し、研究成果発表方法や学術誌への原稿作成方法をより深く修得する。 研究指導科目は、地域社会マネジメント分野のディプロマ・ポリシーのうち「1.地域社会、地域産業、地域計画、地域経営などに関する専門的な理解を通じて地域の諸課題を整理し、定量的・定性的に分析して課題の解決に向けて提案する能力」及び「2.地域資源の有機的な結合を可能にするネットワークの形成に向けて高度に専門的な知見を獲得し、その構築を可能とする能力」ならびに「3.広い視野と探求及び長期的な展望のもと、グローバルな地域社会における様々な組織の環境適応を可能にする高度な分析及び提案能力」に直結するもので、地域社会マネジメント分野博士後期課程に在籍する研究指導教員が担当し、博士論文に向けた研究活動への取り組みも重視して評価を行う。
地域情報工学分野	1. 地域情報工学分野における研究者、教育者、高度専門職業人を養成するため、『専門科目』と『研究指導科目』を配置する。	1. 地域情報工学分野におけるより高度な研究者、研究者および教育指導者を養成するために、『専門科目』と『研究指導科目』を配置する。
	2. 研究及び学位論文作成を支援するために、『専門科目』として情報セキュリティ及び人間情報科学の高度な知識と理論の修得と、それらを活用して地域課題に取り組む学術的専門性の涵養を目的として、「情報セキュリティ特講」と「人間情報科学特講」を配置する。 『専門科目』は、地域情報工学分野のディプロマ・ポリシー1に直結するもので、地域情報工学分野の教員がオムニバス方式で講義を実施することで、本分野で取り扱う全体的な教育・研究内容について理解を深める。 『専門科目』の成績評価は、レポートやディスカッション等を重視して行う。	2. 博士論文研究を支援するために、『専門科目』として情報システムのセキュリティ及び人間情報科学の高度な知識と理論を修得することを目的とした「情報セキュリティ特講」と「人間情報科学特講」を配置する。 専門科目は、地域情報工学分野のディプロマ・ポリシーのうち「1.情報工学の専門家として情報社会における課題を自ら発見し、解決や価値創造を遂行する能力」及び「2.情報工学において広い視野にたった学術的価値や社会的価値のある新たな発見をし、評価する能力」に直結するもので、地域情報工学分野博士後期課程に在籍する全教員がオムニバス方式で講義を実施し、レポートのみならず講義中のディスカッションも重視して評価を行う。受講生が2校地におよぶ場合等は遠隔授業方式（メディア授業）を採用し、学生の移動にともなう時間的な負担を解消する。 また、地域創生専攻として分野を横断した研究を促進するため、地域社会マネジメント分野及び人間栄養健康科学分野における科目の履修も可能とする。
	3. 地域情報工学分野におけるより高度な専門的知識及び研究開発を可能とする能力を養成するため、『研究指導科目』として「特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を配置する。 『研究指導科目』では、研究指導教員の指導のもと、研究課題を設定し、研究計画を立案、研究方法の展開、データ収集、データ解析などを行い、地域情報工学分野を探究する学術論文及び博士論文の作成に取り組む。 また、各専門分野の最新の研究成果を掲載した学術論文を精読・理解して、博士論文の研究にふさわしいよりレベルの高い知識を修得し、研究成果発表方法や学術誌への原稿作成方法をより深く修得する。 『研究指導科目』は、地域情報工学分野の3つのディプロマ・ポリシーを総合的に実現するもので、成績評価は研究課題に取り組む姿勢とその理解度および成果（学位論文内容及び最終試験、学会発表、論文投稿・掲載など）から研究指導教員が総合的に評価する。	3. 地域情報工学分野におけるより高度な専門的知識及び研究開発するための能力を『研究指導科目』で養成するために、「特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を配置する。具体的には、研究課題を設定し、研究計画を立案、研究方法の展開、データ収集、データ解析などを行い、地域情報工学分野を探究する学術論文および博士論文の作成に取り組む。また、ゼミ形式により、各専門分野の最新の研究成果を掲載した学術論文を精読・理解して、博士論文の研究にふさわしいよりレベルの高い知識を修得し、研究成果発表方法や学術誌への原稿作成方法をより深く修得する。 研究指導科目は、地域情報工学分野のディプロマ・ポリシーのうち「1.情報工学の専門家として情報社会における課題を自ら発見し、解決や価値創造を遂行する能力」及び「2.情報工学において広い視野にたった学術的価値や社会的価値のある新たな発見をし、評価する能力」ならびに「3.国内外の研究者や実務家とコミュニケーションを取り、研究開発の意見交換や共同研究のネットワークを構築し、自ら学術上の発信をする能力」に直結するもので、地域情報工学分野博士後期課程に在籍する研究指導教員が講義を実施し、レポートのみならず講義中の発表も重視して評価を行う。

長崎県立大学大学院 地域創生研究科 地域創生専攻(博士後期課程)カリキュラム・ポリシー 新旧対照表

	新	旧
人間栄養健康科学分野	1. 人間栄養健康科学分野における研究者、教育者、高度専門職業人を養成するために、『専門科目』と『研究指導科目』を配置する。	1. 人間栄養健康科学分野におけるより高度な研究者および教育指導者を養成するために、『専門科目』と『研究指導科目』を配置する。
	2. 研究及び学位論文作成を支援するために、『専門科目』として基礎栄養及び実践栄養の高度な知識と理論の修得とそれらを活用して地域課題に取り組む学術的専門性の涵養を目的として、「基礎栄養科学特講」と「実践栄養科学特講」を配置する。 『専門科目』は、人間栄養健康科学分野のディプロマ・ポリシー1に直結するもので、人間栄養健康科学分野の教員がオムニバス方式で講義を実施することで、本分野で取り扱う全体的な教育・研究内容について理解を深める。 『専門科目』の成績評価は、プレゼンテーションやディスカッション等を重視して評価を行う。	2. 博士論文研究を支援するために、基礎栄養および実践栄養の高度な知識及び理論を修得することを目的とした「基礎栄養科学特講」及び「実践栄養科学特講」を『専門科目』として配置する。 専門科目は、人間栄養健康科学分野のディプロマ・ポリシーの「1.「食と健康」に対し、栄養、食生活、運動、医療に関する専門的な知識や技術を修得する」および「2.保健・医療・福祉分野で活躍できる専門業務を担う人材としての高度な知識や技術を修得する」ことに直結するものであり人間栄養健康科学分野の専任教員がオムニバス形式として教授する。成績評価については、講義最終回時のプレゼンテーションの内容とそのディスカッション時の応答および、講義時の姿勢（質問の有無等）等から総合的に評価する。
	3. 人間栄養健康科学分野におけるより高度な専門的知識及び研究開発を可能とする能力を養成するため、『研究指導科目』として「特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を配置する。 『研究指導科目』では、研究指導教員の指導のもと、研究課題を設定し、研究計画を立案、研究方法の展開、データ収集、データ解析などを行い、栄養健康科学を探究する学術論文及び博士論文の作成に取り組む。 また、各専門分野の最新の研究成果を掲載した学術論文を精読・理解して、博士論文の研究にふさわしいよりレベルの高い知識を修得し、研究成果発表方法や学術誌への原稿作成方法をより深く修得する。 『研究指導科目』は、人間栄養健康科学分野の3つのディプロマ・ポリシーを総合的に実現するもので、成績評価は研究課題に取り組む姿勢とその理解度および成果（学位論文内容および最終試験、学会発表、論文投稿・掲載など）から研究指導教員が総合的に評価する。	3. 人間栄養健康科学分野におけるより高度な専門的教育研究者や保健・医療・福祉分野で活躍できる専門業務を担う人材として必要な知識を有し、職務を遂行するための能力を養成するために、『研究指導科目』として「特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を配置する。具体的には、研究指導教員の指導のもと、研究課題の設定、研究計画を立案、研究方法の展開、データ収集、データ解析などを行い、健康科学を探究する学術論文および博士論文の作成に取り組む。また、各専門分野の最新の研究成果を掲載した学術論文を精読・理解して、博士論文の研究にふさわしいよりレベルの高い知識を修得し、研究成果発表方法や学術誌への原稿作成方法をより深く修得する。 『研究指導科目』は、人間栄養健康科学分野のディプロマ・ポリシーの「1.「食と健康」に対し、栄養、食生活、運動、医療に関する専門的な知識や技術を修得した上で、さらに基礎栄養科学分野や実践栄養科学分野等において国際的レベルで高度な専門研究を推進できる研究者としての能力」および「2.保健・医療・福祉分野で活躍できる専門業務を担う人材としての高度な技術や知識を修得した上で、さらに専門業務を実践できる能力およびこれらの職域での指導者（責任者）としての人材教育ができる能力」ならびに「3.健康の保持・増進の視点に立ち、次世代の専門業務を担う人材を育てる管理栄養士養成施設等の高等教育研究機関の教育研究指導者としての能力」を養成することに直結するものである。本科目は、人間栄養健康科学分野に在籍する研究指導教員が担当する。成績評価については、研究課題に取り組む姿勢とその理解度および成果（学会発表、論文投稿など）から総合的に評価する。

長崎県立大学大学院 地域創生研究科 地域創生専攻(博士後期課程)アドミッション・ポリシー 新旧対照表

	新	旧
専攻	<p>本専攻は、これまで培った専門知識と技術を一層高度化させ、他領域との連携を図ることで本学独自の教育・研究体制による地域貢献に資するための高度な知識を修得させ、同時に学術研究において高い水準の先端研究を自立して行える能力を身に付けることで、地域経済、経営、メディア、情報工学、栄養健康科学に関わる学際領域に関して高度な専門性をもったうえで、他の専門分野と協働して実践的な問題を解決して地域で活躍し得る高度な研究能力を有する人材の養成を行うことを目指しており、以下のような人材を受け入れる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域社会、情報工学あるいは栄養健康科学に関する基礎的素養を有し、さらに研究を深めたい人 2. 1つの専門分野に限らず、広い視野に立って地域の課題解決のための研究を志している人 3. 本課程で得られた知識や技術を通して、研究者、教育者及び高度専門職業人として地域・社会に貢献したいと考えている人 	<p>本専攻は、<u>修士課程</u>で培った専門知識と技術を一層高度化させ、他領域との連携を図ることで本学独自の教育・研究体制による地域貢献に資するための高度な知識を修得させ、同時に学術研究において高い水準の先端研究を自立して行える能力を身に<u>つける</u>ことで、地域経済、経営、メディア、情報工学、健康科学に関わる学際領域に関して高度な専門性をもったうえで、他の専門分野と協働して実践的な問題を解決して地域で活躍し得る高度な研究能力を有する人材の養成を行うことと<u>して</u>おり、以下のような人材を受け入れる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域社会、情報工学あるいは栄養科学に関する基礎的素養を有し、さらに研究を深めたい人 2. 1つの専門分野に限らず、広い視野に立って地域の課題解決のための研究を志している人 3. 本課程で得られた知識や技術を通して、研究者、教育者及び高度専門職業人として地域・社会に貢献したいと考えている人
地域社会マネジメント分野	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域経済、経営、メディアに関する基礎的素養を有し、さらに研究を深めたい人 2. 情報工学、栄養健康科学などにも興味があり、持続可能な地域社会を実現するために広い視野に立って他の分野と連携し、地域の課題解決に貢献したい人 3. 地域社会の様々な課題を解決するため、地域経済、経営、メディアなどの知識を駆使して研究者、教育者及び高度専門職業人としての立場から地域・社会に貢献することを目指す人 	<ol style="list-style-type: none"> 1. <u>教育・研究機関において地域社会マネジメントの領域で教育・研究者を目指す人</u> 2. <u>地方機関、政府機関、国際機関等における中長期的戦略・政策・経営部門などの専門業務を担い研究者としての資質を備えた高度専門職業人を目指す人</u> 3. 地域社会の様々な課題を解決するために<u>研究者としての立場から貢献することを目指す人</u>
地域情報工学分野	<ol style="list-style-type: none"> 1. ヒューマンインターフェース、計算機科学、情報通信に関する基礎的素養を有し、さらに研究を深めたい人 2. 地域経済、経営、メディア、栄養健康科学などにも興味があり、先進的情報技術を駆使しながら広い視野に立って他の分野と連携し、地域の課題解決に貢献したい人 3. 地域社会の様々な課題を解決するため、先進的情報技術分野あるいはその活用分野における研究者、教育者及び高度専門職業人としての立場から地域・社会に貢献することを目指す人 	<ol style="list-style-type: none"> 1. <u>ヒューマンインターフェース、計算機科学、情報通信等についての修士課程修了相当の基礎的素養を有する人。</u> 2. <u>サイバー空間とその膨大なデータの新たなデジタル社会を地域で実現するために、問題や課題を自ら発見し、先進的情報技術を駆使して解決や価値創造をすることに意欲を持つ人。</u> 3. <u>指導教員の助言の下で研究計画とスケジュールを立案し、自ら推進・修正ができる人。</u>
人間栄養健康科学分野	<ol style="list-style-type: none"> 1. 栄養健康科学に関する基礎的素養を有し、さらに研究を深めたい人 2. 地域経済、経営、メディア、情報工学などにも興味があり、栄養健康科学の知識と技術を駆使しながら広い視野に立って他の分野と連携し、地域の課題解決に貢献したい人 3. 地域社会の様々な課題を解決するために、地域の保健・医療・福祉分野あるいは食品・医薬品関連分野における研究者、教育者及び高度専門職業人としての立場から地域・社会に貢献することを目指す人 	<ol style="list-style-type: none"> 1. <u>栄養・健康科学領域の修士課程修了相当の基礎的素養を有する人</u> 2. <u>栄養・健康科学の教育・研究機関で、教育・研究者を目指す人</u> 3. <u>臨床栄養分野や地域の保健・医療・福祉等の職域で、高度専門職業人として地域の健康管理に貢献したい人</u> 4. <u>食品・医薬品等の関連企業や公的試験・研究機関において研究リーダーを目指す人</u>

新旧対照表「アカデミックスキル特講」の授業科目の概要

新	旧
<p>(概要)</p> <p>複雑多様化する地域社会の諸問題に対して、高度な専門的知識を備え、さらに、異なる専門領域と協働することで問題解決を図ることができる研究者としての基本的なスキルの修得を目指した授業である。具体的には、望ましい倫理規範の会得、研究のプロセス、すなわち、研究課題の設定、文献検討の方法、研究デザインの組み立て、研究方法の設定、結果の解釈、総括等の方法のほか、研究論文の構成および論文発表の必要性や効果的な発表方法の獲得のための内容が展開される。なお、この授業では1テーマにつき3回の授業において異分野の教員がチームで取り組み協力することで、受講生の専門分野とその周辺領域の観点から研究の拡大と深化を支援する。</p> <p>(14 橋本 (松本) 優花里・24 島 成佳・26 大曲 勝久/3回) (共同)</p> <p>(1)地域社会マネジメント分野、情報工学分野、栄養科学分野から成る本専攻科に共通する論文の適正・適切な引用方法、データ改ざん・捏造等の禁止、二重投稿の禁止、オーサーシップなど、研究者として知っておくべき基礎的な研究倫理の留意点を解説する。</p> <p>(2)第1回授業の内容を踏まえ、地域社会マネジメント分野、情報工学分野、栄養科学分野のうち、受講生の専門分野に特徴的な研究倫理の留意点を解説する。</p>	<p>(概要)</p> <p>複雑多様化する地域社会の諸問題に対して、高度な専門的知識を備え、さらに、異なる専門領域と協働することで問題解決を図ることができる研究者として望ましい倫理規範を身につけ、研究のプロセス、すなわち、研究課題の設定、文献検討の方法、研究デザインの組み立て、研究方法の設定、結果の解釈、総括等の方法を教授する。さらに研究論文の構成および論文発表の必要性や効果的な発表方法を概説する。</p> <p>(10 宮地 晃輔/1回)</p> <p><u>地域社会マネジメント分野を構成する経営学、経済学、政策科学、法学・政治学、国際関係論、メディア論及び認知科学などに関連する社会科学・人間科学領域のうち、担当教員の研究における最近の動向を踏まえて受講生の研究を支援する。</u></p> <p>(12 荻野 晃/1回)</p> <p><u>地域社会マネジメント分野を構成する経営学、経済学、政策科学、法学・政治学、国際関係論、メディア論及び認知科学などに関連する社会科学・人間科学領域のうち、担当教員の研究における課題を踏まえて受</u></p>

新旧対照表「アカデミックスキル特講」の授業科目の概要

新	旧
<p>(3)地域社会マネジメント分野、情報工学分野、栄養科学分野のうち、受講生の専門分野以外の分野での研究倫理の留意点を概説するとともに、それらと受講生の専門分野の内容との比較を通じて受講生の研究を遂行する上での課題を検討する。</p> <p>(10 宮地 晃輔・23 平岡 透・41 城内文吾／3回) (共同)</p> <p>(1)地域社会マネジメント分野、情報工学分野、栄養科学分野から成る本専攻科に共通する、地域創生に関わる基礎的な研究動向を解説する。</p> <p>(2)地域社会マネジメント分野、情報工学分野、栄養科学分野のうち、受講生の専門分野に特徴的な研究の動向を解説する。</p> <p>(3)地域社会マネジメント分野、情報工学分野、栄養科学分野のうち、受講生の専門分野以外の分野の研究動向について概説し、受講生の専門分野の内容との比較を通じて受講生の研究を発展させるための視点を提供する。</p>	<p><u>講生の研究課題設定を支援する。</u></p> <p>(14 橋本 (松本) 優花里／1回) <u>地域社会マネジメント分野を構成する経営学、経済学、政策科学、法学・政治学、国際関係論、メディア論及び認知科学などに関連する社会科学・人間科学領域のうち、担当教員の研究における倫理的留意点を踏まえて受講生の研究を支援する。</u></p> <p>(1 関谷 融／1回) <u>地域社会マネジメント分野を構成する経営学、経済学、政策科学、法学・政治学、国際関係論、メディア論及び認知科学などに関連する社会科学・人間科学領域のうち担当教員の研究手法を踏まえて受講生の研究デザインの組み立て方を指導する。</u></p> <p>(13 神保 充弘／1回) <u>地域社会マネジメント分野を構成する経営学、経済学、政策科学、法学・政治学、国際関係論、メディア論及び認知科学などに関連する社会科学・人間科学領域のうち、担当教員の研究手法を踏まえて受講生の研究結果の解釈、総括等の方法を教授する。</u></p> <p>(23 平岡 透／1回) <u>情報工学領域のうち、担当教員の研究における最近の動向を踏まえて受講生の研究を支援する。</u></p>

新旧対照表「アカデミックスキル特講」の授業科目の概要

新	旧
<p>(12 荻野 晃・22 星野 文学・26 大曲 勝久／1回) (共同)</p> <p>(1)地域社会マネジメント分野、情報工学分野、栄養科学分野から成る本専攻科に共通する、地域創生に関わる基礎的な研究課題についてホットトピックを解説する。</p> <p>(2)地域社会マネジメント分野、情報工学分野、栄養科学分野のうち、受講生の専門分野に特徴的な研究課題について解説する。</p> <p>(3)地域社会マネジメント分野、情報工学分野、栄養科学分野のうち、受講生の専門分野以外の分野の研究課題におけるホットトピックを概説し、受講生の専門分野の内容との比較を通じて受講生の研究の深化を図る。</p>	<p>(22 星野 文学／1回)</p> <p><u>情報工学領域のうち、担当教員の研究における課題を踏まえて受講生の研究課題設定を支援する。</u></p> <p>(24 島 成佳／1回)</p> <p><u>情報工学領域のうち、担当教員の研究における倫理を踏まえて受講生の研究を支援する。</u></p> <p>(36 飛谷 謙介／1回)</p> <p><u>画像処理や感性情報処理などの情報工学に関する研究事例を踏まえて受講生の研究デザインの組み立て方を指導する。</u></p>
<p>(1 関谷 融・36 飛谷 謙介・39 松澤 哲宏／3回) (共同)</p> <p>(1)地域社会マネジメント分野、情報工学分野、栄養科学分野から成る本専攻科に共通する、地域創生に向けた基礎的な研究のデザインの方法を解説する。</p> <p>(2)地域社会マネジメント分野、情報工学分野、栄養科学分野のうち、受講生の専門分野に特徴的な研究のデザイン方法を解説する。</p> <p>(3)地域社会マネジメント分野、情報工学分野、栄養科学分野のうち、受講生の専門分野以外の分野の研究のデザイン方法を概</p>	<p>(21 片山 徹也／1回)</p> <p><u>情報工学分野を構成する情報工学領域のうち、担当教員の研究手法を踏まえて受講生の研究結果の解釈、総括等の方法を教授する。</u></p> <p>(41 城内 文吾／2回)</p> <p><u>(1)人間栄養健康科学分野における基礎研究や応用研究の最近の動向を示して受講生の研究を支援する。</u></p> <p><u>(2)人間栄養健康科学分野における基礎研究を中心に研究課題の設定方法を示して受講生の研究を支援する。</u></p>

新旧対照表「アカデミックスキル特講」の授業科目の概要

新	旧
<p>説するとともに、受講生の専門分野の内容との比較を通じて受講生の研究デザインの充実を図る。</p> <p>(1 関谷 融・21 片山 徹也・26 大曲 勝久／1回) (共同) 地域社会マネジメント分野、情報工学分野、栄養科学分野から成る本専攻科に共通する、地域創生を念頭に置いた基礎的な研究結果の分析方法と結果の解釈、総括等の方法について解説する。</p> <p>(12 荻野 晃・21 片山 徹也・26 大曲 勝久／1回) (共同) 地域社会マネジメント分野、情報工学分野、栄養科学分野のうち、受講生の専門分野に特徴的な研究結果の分析方法と結果の解釈、総括等の方法について解説する。</p> <p>(10 宮地 晃輔・21 片山 徹也・26 大曲 勝久／1回) (共同) 地域社会マネジメント分野、情報工学分野、栄養科学分野のうち、受講生の専門分野以外の分野での研究結果の分析方法と結果の解釈、総括等の方法について概説し、受講生の専門領域の内容との比較を通じて、研究成果を多角的に検討する方法を支援する。</p>	<p>(26 大曲 勝久／1回) <u>栄養学を含む健康科学分野における研究者倫理について、研究者の行動規範（不正行為等）およびヒトや動物を対象とした研究の意義・あり方などを踏まえて受講生の研究を支援する。</u></p> <p>(39 松澤 哲宏／2回) <u>(1)人間栄養健康科学分野における研究デザインの立て方を踏まえて受講生の研究を支援する。</u></p> <p><u>(2)人間栄養健康科学分野における研究結果の解釈およびまとめ方、結果の発表(学会、学術論文等)の方法を踏まえて受講生の研究を支援する。</u></p>

新旧対照表「地域創生学特講」の授業科目の概要

新	旧
<p>(概要)</p> <p>複雑多様化する地域社会の諸問題に対して、高度な専門的知識を備え、さらに、異なる専門領域と協働することで問題解決を図るための多角的な視点の獲得を目指す。すなわち、受講生がこれまで培った専門知識と技術を一層高度化させ、かつ、地域経済、経営、メディア、情報工学、栄養健康科学分野の知識を組み合わせ・活用することで地域貢献に資するためのつなぐ力の獲得を主眼とする。そのために、地域社会マネジメント分野、地域情報工学分野、人間栄養健康科学分野の担当教員が、これらの領域と地域創生との関連性について、3分野が相互に関連して地域課題解決に応用される例として、主に①地域社会の持続可能性、②地域社会における生活と経済、③地域社会のグローバル化、④地域社会のアクセシビリティ、⑤地域社会の健康維持の観点から講義を行うとともに各観点が地域創生に果たす役割について考え、その実現に向けた方策について検討する。</p> <p>(6 谷澤 毅/1回)</p> <p>「総論」</p> <p>本科目の内容とねらいについて概略を紹介する。そして、ドイツ中世都市の発展と現状などを事例としながら地域の成り立ちとあり方の一端について検討するとともに、歴史学的なアプローチが地域創生の実現の鍵となる可能性について理解が深まるよう、地域についての史的考察とその意義の解説を加える。</p>	<p>(概要)</p> <p>複雑多様化する地域社会の諸問題に対して、高度な専門的知識を備え、さらに、異なる専門領域と協働することで問題解決を図るために、これまで培った専門知識と技術を一層高度化させ、かつ、地域経済、経営、メディア、情報工学、栄養健康科学分野の知識を幅広く活用して地域貢献に資するための方策を修得させる。そのために、地域社会マネジメント分野、地域情報工学分野、人間栄養健康科学分野の担当教員がこれらの領域の関連性および地域創生実現のための方策について、主に地域社会の持続可能性、地域社会における生活と経済、地域社会のグローバル化、地域社会のアクセシビリティ、地域社会の健康維持の観点から講義を行う。</p> <p>(6 谷澤 毅/1回)</p> <p>本科目の内容とねらいについて概略を紹介したのち、ドイツ中世都市の発展と現状などを事例としながら地域の成り立ちとあり方の一端について検討し、合わせて歴史学的なアプローチが持つ可能性について理解が深まるよう解説を加える。</p>

新旧対照表「地域創生学特講」の授業科目の概要

新	旧
<p>(42 石田 聖／1回) 「地域社会の持続可能性へのアプローチ」 地域社会を含めた持続可能社会を構築する上での課題について協働型ガバナンスと合意形成論の観点から、自然科学・生命科学の専門家もかかわった自然再生事業、感染症対策、社会資本整備、人材育成の事例に基づき地域創生のヒントを探る。</p>	<p>(42 石田 聖／1回) 地域社会を含めた持続可能社会を構築する上での課題について協働型ガバナンスと合意形成論の観点から自然科学・生命科学の専門家もかかわった自然再生事業、感染症対策、社会資本整備、人材育成の事例に基づき<u>検討</u>する。</p>
<p>(20 吉村 元秀／1回) 「地域社会の持続可能性へのアプローチ」 観光サービスマーケティングと観光サービスデザインについての事例研究を通して、観光情報システムが地域外食産業や食文化の活性化といった地域創生に果たす役割を考え、それにより未来を創造する発想力を身に着けることを目指す。</p>	<p>(20 吉村 元秀／1回) 観光サービスマーケティングと観光サービスデザインについての事例研究を通して、観光情報システムが地域外食産業や食文化の活性化<u>のために目指す未来を創造</u>する発想力を身に着けることを目指す。</p>
<p>(27 古場 一哲／1回) 「地域社会の持続可能性へのアプローチ」 食品の機能性に関する研究は、食品系企業や地域経済の活性化にとってもますます重要な戦略の一つになっている。近年の研究の中から、特に脂質代謝調節に関する食品機能の研究について概説し、食品開発が地域創生に果たす役割を考える。</p>	<p>(27 古場 一哲／1回) 食品の機能性に関する研究は、食品系企業や地域経済の活性化にとってもますます重要な戦略の一つになっている。近年の研究の中から、特に脂質代謝調節に関する食品機能の研究について概説<u>する</u>。</p>
<p>(25 岡田 雅之／1回) 「地域社会の生活と経済の関連性へのアプローチ」 企業誘致や地域定住に深く関わるリモートワーク・テレワークや食生活・健康増進の情報共有に欠かせないインターネット基</p>	<p>(25 岡田 雅之／1回) 企業誘致や地域定住に深く関わるリモートワーク・テレワークや食生活・健康増進の情報共有に欠かせないインターネット基</p>

新旧対照表「地域創生学特講」の授業科目の概要

新	旧
<p>盤につい、経路制御、名前解決に関わる最新のセキュリティ技術とその運用について学び、それらが地域創生に果たす役割について考える。</p> <p>(40 飛奈 卓郎/1回) 「地域社会の生活と経済の関連性へのアプローチ」 運動習慣形成に有効な情報発信とは？健康増進による地域の経済効果は？等も含めて、健康増進が地域創生に果たす役割について皆で意見を出し合い、現在の地域が有する問題解決に向けた検討をする。</p> <p>(34 福島 涼史/1回) 「地域社会のグローバル化へのアプローチ」 グローバル化の進展に伴い様々な国から日本にやってくる人々へ社会生活を行う上で必要な各種のサービスを的確に提供することが求められている。この回では、感染症対策を含め入国管理や在資格等について法律に関する専門知識を共有し、共生社会での地域創生を考える。</p> <p>(37 喜多 義弘/1回) 「地域社会のグローバル化へのアプローチ」 地域の少額即時決済、あるいは体調等の個別スマートサービス等において必須となる、人・動物や農産物・工業製品の即時識別のための生体認証を通じ、身近にある生体情報とそれを活用した認証技法、および個人やモノを識別するための機械学習法に関</p>	<p>盤につい、経路制御、名前解決に関わる最新のセキュリティ技術とその運用について学<u>ぶ</u>。</p> <p>(40 飛奈 卓郎/1回)</p> <p>運動習慣形成に有効な情報発信とは？健康増進による地域の経済効果は？等も含めて、皆で意見を出し合い<u>今後の</u>問題解決に向けた検討をする。</p> <p>(34 福島 涼史/1回)</p> <p>グローバル化の進展に伴い様々な国から日本にやってくる人々へ社会生活を行う上で必要な各種のサービスを的確に提供することが求められている。この回では、感染症対策を含め入国管理や在資格等について専門知識を共有<u>する</u>。</p> <p>(37 喜多 義弘/1回)</p> <p>地域の少額即時決済、或いは体調等の個別スマートサービス等において必須となる、人・動物や農産物・工業製品の即時識別のための生体認証を通じ、身近にある生体情報とそれを活用した認証技法、および、個人やモノを識別するための機械学習法に</p>

新旧対照表「地域創生学特講」の授業科目の概要

新	旧
<p>する知識を学ぶ。そして、生体認証技術が地域創生に果たす役割について考える。</p> <p>(45 竹内 昌平/1回) 「地域社会のグローバル化へのアプローチ」</p> <p>地域の高齢者の健康維持に影響する可能性がある買い物行動や、人口構成が変わることによる感染症の基本再生産数の変化などについて概説する。そして、高齢者の健康維持と地域創生の関係について考えたうえで、現在の地域が有する問題解決に向けた栄養疫学分野からのアプローチを検討する。</p> <p>(33 賈 曦/1回) 「地域社会のアクセシビリティへのアプローチ」</p> <p>SDGsの目標と関連しつつ、地域社会を含めた持続可能な超スマート社会を構築するためには、イノベーション能力、メディアの情報伝達、地域社会のニーズの掘り起こしなど多くの課題があることを概説する。そして、地域創生における超スマート社会の実現に向けた地域コミュニティの課題について検討する。</p> <p>(21 片山 徹也/1回) 「地域社会のアクセシビリティへのアプローチ」</p> <p>地域社会で活用される情報コンテンツの色彩情報がアクセシビリティ及びユーザビリティに及ぼす影響について、デザイン学</p>	<p>関する知識を学ぶ。</p> <p>(45 竹内 昌平/1回)</p> <p>地域の高齢者の健康維持に影響する可能性がある買い物行動や、人口構成が変わることによる感染症の基本再生産数の変化などについて概説し、問題解決に向けた検討を行う。</p> <p>(33 賈 曦/1回)</p> <p>SDGsの目標と関連しつつ、地域社会を含めた持続可能な超スマート社会を構築するためには、イノベーション能力、メディアの情報伝達、地域社会のニーズの掘り起こしなど多くの課題があることを概観し、課題について意見交換を行う。</p> <p>(21 片山 徹也/1回)</p> <p>地域社会で活用される情報コンテンツの色彩情報がアクセシビリティ及びユーザビリティに及ぼす影響について、デザイン学</p>

新旧対照表「地域創生学特講」の授業科目の概要

新	旧
<p>や人間工学等を踏まえた学際的観点から概説する。そして、地域創生に必要な多様な利用者にとって望ましい情報アーキテクチャの設計手法について検討する。</p> <p>(28 世羅 至子／1回) 「地域社会のアクセシビリティへのアプローチ」 生活習慣病である慢性疾患を抱えた高齢者に対して、栄養を維持することが重要である。高齢者の栄養状態の改善についての意見交換を行い、特に専門医などの医療資源が不足している離島などの地域に向けてどのように情報発信していくかについて、地域創生の観点から検討する。</p> <p>(8 大重 育美／1回) 「地域社会の健康維持へのアプローチ」 地域社会において業務の継続が求められる交代制勤務者について、特有の睡眠・疲労の実態を概説する。そのうえで、リスクの所在と有用なマネジメント方法を多角的なアプローチから考察し、地域創生を担うエッセンシャルワーカーの健康維持を含めた課題について検討する。</p> <p>(36 飛谷 謙介／1回) 「地域社会の健康維持へのアプローチ」 地域社会における QOL (生活の質) に直結する「楽しさ」や「感動」といった心の豊かさ (感性価値) をもたらす新しい科学技術として、感覚・感性を指標化する手法に関する知識を修得し、感性情報学分野の基本</p>	<p>や人間工学等を踏まえた学際的観点から概説し、<u>多様な利用者にとって望ましい情報アーキテクチャの設計手法</u>について検討する。</p> <p>(28 世羅 至子／1回)</p> <p>生活習慣病である慢性疾患を抱えた高齢者に対して、栄養を維持することが重要である。高齢者の栄養状態の改善についての意見交換を行い、特に専門医などの医療資源が不足している離島などの地域に向けてどのように情報発信していくか、<u>皆で</u>検討する。</p> <p>(8 大重 育美／1回)</p> <p>地域社会において業務の継続が求められる交代制勤務者について、特有の睡眠・疲労の実態を<u>通して</u>、リスクの所在と有用なマネジメント方法を多角的なアプローチから考察し、健康維持を含めた課題について<u>意見交換を行う</u>。</p> <p>(36 飛谷 謙介／1回)</p> <p>地域社会における QOL (生活の質) に直結する「楽しさ」や「感動」といった心の豊かさ (感性価値) をもたらす新しい科学技術として、感覚・感性を指標化する手法に関する知識を修得し、感性情報学分野の基本</p>

新旧対照表「地域創生学特講」の授業科目の概要

新	旧
<p>的な資質を身につけることを目指す。そして、心の豊かさが地域創生に与える効果を考える。</p> <p>(43 石見 百江/1回) 「地域社会の健康維持へのアプローチ」 疾病を予防し、健康維持に必要な栄養情報を得て食事管理をするプロセスの中で、地域の人々がとる行動への動機づけや栄養教育の課題について概説する。そのうえで、地域創生に欠かせない栄養教育の在り方について考える。</p>	<p>的な資質を身につけることを目指す。</p> <p>(43 石見 百江/1回) 疾病を予防し、健康維持に必要な栄養情報を得て食事管理をするプロセスの中で、地域の人々がとる行動への動機づけや栄養教育の課題について概説する。</p>

新旧対照表「地域創生学演習」の授業科目の概要

新	旧
<p>(概要)</p> <p>複雑多様化する地域社会の諸問題に対して、高度な専門的知識を備え、さらに、異なる専門領域と協働することで問題解決を図ることの意義の理解を深めるための内容を展開する。「地域創生学特講」で学んだ内容を基に、地域社会マネジメント分野、地域情報工学分野、人間栄養健康科学分野の担当教員から提示される、上記の3分野にまたがる実際あるいは想定される具体的な課題に対し、解決するための方策の立案方法や評価方法について1課題につき5回の演習を行う。5回目の授業では、それらの内容の関連性を踏まえたうえで統合的な発展の方策や受講生の研究テーマへの応用を検討しプレゼンテーションを行うことで学際的な研究方法について領域を超えた問題解決方法の理解を深める。また、各専門分野の基礎研究および実践研究が地域の活性化にどのように貢献しうるかを理解する。</p> <p>地域社会の課題1に対する地域社会マネジメント分野からのアプローチ</p> <p>(9 大塚 一徳・17 ソムチャイ チャットウィチェンチャイ/1回)</p> <p>(共同)</p> <p>提示された地域社会の課題1に対して、主に地域における人と社会の関係性など地域社会マネジメント分野の見地から解決方法を検討する。</p> <p>(9 大塚が演習を主導し、17 ソムチャイが地域情報工学分野の視点から補完する。)</p>	<p>(概要)</p> <p>複雑多様化する地域社会の諸問題に対して、高度な専門的知識を備え、さらに、異なる専門領域と協働することで問題解決を図ることの意義の理解を深めるために、「<u>地域創生学特講</u>」で学んだ内容を基に、地域社会マネジメント分野、地域情報工学分野、人間栄養健康科学分野の担当教員から提示される、上記の3分野にまたがる実際あるいは想定される具体的な課題に対して、<u>解決するための方策の立案方法や評価方法を演習する。</u></p> <p><u>地域社会の課題に対する地域社会マネジメント分野からのアプローチ</u></p> <p>(9 大塚 一徳/1回)</p> <p><u>提示された地域社会の課題に対して、地域における人と社会の関係性に関する課題(認知心理学・認知科学)の見地から解決方法を検討する。</u></p>

新旧対照表「地域創生学演習」の授業科目の概要

新	旧
<p>地域社会の課題 1 に対する地域情報工学分野からのアプローチ</p> <p>(17 ソムチャイ チャットウィチェンチャイ・40 飛奈 卓郎/1回) (共同) 提示された地域社会の課題 1 に対して、主にデータを活用したビジネスインテリジェンスなど地域情報工学分野の見地から解決方法を検討する。</p> <p>(17 ソムチャイが演習を主導し、40 飛奈が人間栄養健康科学分野の視点から補完する。)</p> <p>地域社会の課題 1 に対する人間栄養健康科学分野からのアプローチ</p> <p>(40 飛奈 卓郎・3 森田 均/1回) (共同) 提示された地域社会の課題 1 に対して、主に地域の健康の保持など人間栄養健康科学分野の見地から解決方法を検討する。</p> <p>(40 飛奈が演習を主導し、3 森田が地域社会マネジメント分野の視点から補完する。)</p> <p>地域社会の課題 1 に対する地域創生の視点からの総合的アプローチ</p> <p>(3 森田 均・9 大塚 一徳/1回) (共同) 提示された地域社会の課題 1 に対して、地域におけるメディアやモビリティの課題を含めた地域創生の見地から解決方法を検討する。</p> <p>(3 森田が演習を主導し、9 大塚が地域社会マネジメント分野の視点から補完する。)</p>	<p>(3 <u>森田 均</u>/1回) <u>提示された地域社会の課題に対して、地域におけるメディアやモビリティの課題(ネットワーク社会論)</u>の見地から解決方法を検討する。</p> <p>(15 <u>車 相龍</u>/1回) <u>提示された地域社会の課題に対して、地域活性化の課題(地域計画)</u>の見地から解決方法を検討する。</p> <p>(13 <u>神保 充弘</u>/1回) <u>提示された地域社会の課題に対して、地域社会における経済発展の課題(マーケティング論)</u>の見地から解決方法を検討する。</p>

新旧対照表「地域創生学演習」の授業科目の概要

新	旧
<p>地域社会の課題 1 に対するアプローチ：検討結果の発表と討論</p> <p>(9 大塚 一徳・3 森田 均・17 ソムチャイ チャットウィチェンチャイ・40 飛奈 卓郎／1回)</p> <p>(共同)</p> <p>これまでに検討した課題 1 に対して、さらなる発展方策や受講生の研究テーマへの応用方策を含めた総合的な検討結果の発表（プレゼンテーション）と討論を行う。</p> <p>地域社会の課題 2 に対する地域社会マネジメント分野からのアプローチ</p> <p>(15 車 相龍・35 齋藤 正也／1回)</p> <p>(共同)</p> <p>提示された地域社会の課題 2 に対して、主に地域活性化(地域計画) など地域社会マネジメント分野の見地から解決方法を検討する。</p> <p>(15 車が演習を主導し、35 齋藤が地域情報工学分野の視点から補完する。)</p> <p>地域社会の課題 2 に対する地域情報工学分野からのアプローチ</p> <p>(35 齋藤 正也・45 竹内 昌平／1回)</p> <p>(共同)</p> <p>提示された地域社会の課題 2 に対して、時系列データ解析の見地から解決方法を検討する。</p> <p>(35 齋藤が演習を主導し、45 竹内が人間栄養健康科学分野の視点から補完する。)</p> <p>地域社会の課題 2 に対する人間栄養健康科学分野からのアプローチ</p>	<p>(9 大塚 一徳・3 森田 均・15 車 相龍・13 神保 充弘／1回)</p> <p>(共同)</p> <p><u>これまでに検討した課題に対して、地域社会マネジメント分野の見地から、さらなる発展方策や院生の研究テーマへの応用方策を含めた総合的な検討結果の発表と討論を行う。</u></p> <p>地域社会の課題に対する地域情報工学分野からのアプローチ</p> <p>(17 ソムチャイ チャットウィチェンチャイ／2回)</p> <p><u>提示された地域社会の課題に対して、組織内外のデータを活用したビジネスインテリジェンスの見地から解決方法を検討する。</u></p>

新旧対照表「地域創生学演習」の授業科目の概要

新	旧
<p>(43 石見 百江・15 車 相龍／1回) (共同) 提示された地域社会の課題 2 に対して、主に地域の栄養課題（栄養教育）など人間栄養健康科学分野の見地から解決方法を検討する。 (43 石見が演習を主導し、15 車が地域社会マネジメント分野の視点から補完する。)</p>	<p>(35 齋藤 正也／2回) <u>提示された地域社会の課題に対して、時系列データ解析の見地から解決方法を検討する。</u></p>
<p>地域社会の課題 2 に対する地域創生の視点からの総合的アプローチ (45 竹内 昌平・43 石見 百江／1回) (共同) 提示された地域社会の課題 2 に対して、栄養疫学を含めた地域創生の見地から解決方法を検討する。 (45 竹内が演習を主導し、43 石見が人間栄養健康科学分野の視点から補完する。)</p>	
<p>地域社会の課題 2 に対するアプローチ：検討結果の発表と討論 (15 車 相龍・35 齋藤 正也・43 石見 百江・45 竹内 昌平／1回) (共同) これまでに検討した課題 2 に対して、さらなる発展方策や受講生の研究テーマへの応用方策を含めた総合的な検討結果の発表（プレゼンテーション）と討論を行う。</p>	<p>(20 吉村 元秀／1回) <u>これまでに検討した課題に対して、地域情報工学分野の見地から、さらなる発展方策や院生の研究テーマへの応用方策を含めた総合的な検討結果の発表と討論を行う。</u></p>
<p>地域社会の課題 3 に対する地域社会マネジメント分野からのアプローチ (13 神保 充弘・20 吉村 元秀／1回) (共同) 提示された地域社会の課題 3 に対して、</p>	<p><u>地域社会の課題に対する人間栄養健康科学分野からのアプローチ</u> (40 飛奈 卓郎／1回) <u>提示された地域社会の課題に対して、地域の健康づくり支援（健康体力科学）の見</u></p>

新旧対照表「地域創生学演習」の授業科目の概要

新	旧
<p>主に経済学（マーケティング）など地域社会マネジメント分野の見地から解決方法を検討する。</p> <p>（13 神保が演習を主導し、20 吉村が地域情報工学分野の視点から補完する。）</p> <p>地域社会の課題 3 に対する地域情報工学分野からのアプローチ</p> <p>（20 吉村 元秀・26 大曲 勝久／1 回） （共同）</p> <p>提示された地域社会の課題 3 に対して、主に知覚情報処理やソフトコンピューティングなど地域情報工学分野の見地から解決方法を検討する。</p> <p>（20 吉村が演習を主導し、26 大曲が人間栄養健康科学分野の視点から補完する。）</p> <p>地域社会の課題 3 に対する人間栄養健康科学分野からのアプローチ</p> <p>（26 大曲 勝久・27 古場 一哲／1 回） （共同）</p> <p>提示された地域社会の課題 3 に対して、主に臨床栄養学など人間栄養健康科学分野の見地から解決方法を検討する。</p> <p>（26 大曲が演習を主導し、27 古場が人間栄養健康科学分野の視点から補完する。）</p> <p>地域社会の課題 3 に対する地域創生の視点からの総合的アプローチ</p> <p>（27 古場 一哲・13 神保 充弘／1 回） （共同）</p> <p>提示された地域社会の課題 3 に対して、食品開発を含めた地域創生の見地から解決</p>	<p>地から解決方法を検討する。</p> <p>（43 石見 百江／1 回）</p> <p><u>提示された地域社会の課題に対して、地域の栄養課題（栄養教育学）の見地から解決方法を検討する。</u></p> <p>（45 竹内 昌平／1 回）</p> <p><u>提示された地域社会の課題に対して、感染症の数理情報モデル（栄養疫学）の見地から解決方法を検討する。</u></p> <p>（26 大曲 勝久／1 回）</p> <p><u>提示された地域社会の課題に対して、栄養摂取の課題（臨床栄養学）の見地から解決方法を検討する。</u></p>

新旧対照表「地域創生学演習」の授業科目の概要

新	旧
<p>方法を検討する。 (27 古場が演習を主導し、13 神保が地域社会マネジメント分野の視点から補完する。)</p> <p>地域社会の課題 3 に対するアプローチ：検討結果の発表と討論</p> <p>(13 神保 充弘・20 吉村 元秀・26 大曲 勝久・27 古場 一哲/1回) (共同)</p> <p>これまでに検討した課題 3 に対して、さらなる発展方策や受講生の研究テーマへの応用方策を含めた総合的な検討結果の発表(プレゼンテーション)と討論を行う。</p>	<p>(27 古場 一哲・40 飛奈 卓郎・43 石見 百江・45 竹内 昌平・26 大曲 勝久/1回) (共同)</p> <p><u>これまでに検討した課題に対して、人間栄養健康科学分野の見地から、</u>さらなる発展方策や院生の研究テーマへの応用方策を含めた総合的な検討結果の発表と討論を行う。</p>

新旧対照表「情報セキュリティ特講」の授業科目の概要

新	旧
<p>(概要)</p> <p>地域課題の解決のための基盤技術である情報セキュリティの観点から適用する6つの主題について基礎理解を深化させる。各主題においては、地域課題への適用を念頭に置いて講義をすすめる。各主題は以下の通りである。</p> <p>(A) ネットワークセキュリティ、(B) 暗号応用、(C) 生体認証、(D) 時系列データ解析、(E) セキュリティバイデザイン、(F) 制御セキュリティ</p> <p>(19 小林 信博/2回)</p> <p>制御セキュリティにおける高度な対策手法について学び、地域課題の解決につながる応用力を養う。</p> <p>(1) セキュリティ領域における制御セキュリティの適用領域と、安全・安心な地域社会の形成において制御セキュリティが果たすべき役割について理解する。</p> <p>(2) 制御セキュリティ特有のセキュリティ機能、課題およびセキュリティ対策について理解し、攻撃事例・対策事例について学び、地域課題の解決に向けた技術の活用能力を養う。</p> <p>(22 星野 文学/2回)</p> <p>暗号の数理、実装、および応用を地域課題を通して学ぶ。</p> <p>(1) 離島医療などの地域社会特有の通信需要を情報セキュリティの観点から理解し、対策の基本である対称鍵暗号および鍵共有等を学ぶ。</p> <p>(2) 暗号応用(1)に引き続き、対策の基本で</p>	<p>(概要)</p> <p><u>情報セキュリティにおける5つの主題について基礎理解を深化させる。</u></p> <p>(A) <u>制御セキュリティ</u>、(B) 暗号応用、(C) <u>ネットワークセキュリティ</u>、(D) 時系列データ解析、(E) <u>生体認証</u></p> <p>(19 小林 信博/3回)</p> <p>制御セキュリティを概観し、事例に基づき本質の捕捉を試みる。</p> <p>(1) セキュリティ領域における制御セキュリティの適用領域を<u>理解する。</u></p> <p>(2) 制御セキュリティ特有のセキュリティ機能、課題およびセキュリティ対策について<u>理解する。</u></p> <p>(3) 制御セキュリティ領域における攻撃事例、対策事例を<u>学ぶ。</u></p> <p>(22 星野 文学/3回)</p> <p><u>現実の計算資源やネットワークの制約を踏まえつつデータの機密性・真正性や個人のプライバシーを担保する種々の暗号方式を実現する方法を仮想ネットワーク上で演習する。</u></p> <p>(1) <u>鍵共有、及び、対称鍵暗号を扱う。</u></p> <p>(2) <u>公開鍵、及び、本人認証を扱う。</u></p>

新旧対照表「情報セキュリティ特講」の授業科目の概要

新	旧
<p>ある公開鍵、本人認証、及び、デジタル署名等を学ぶ。</p> <p>(25 岡田 雅之／3回)</p> <p>インターネット基盤を構成する仕組みを高度な内容と合わせて解説し、基盤を守るセキュリティを学習する。</p> <p>(1)インターネット番号資源の管理を演習を含め学び、インターネットに接続する地域としての特性を考慮しつつ、大規模ネットワークのセキュリティを扱う。</p> <p>(2)グローバルインターネットと地域折り返しのトラフィックの違いをセキュリティの観点から解説し学ぶ。</p> <p>(3)分散型サービス不能攻撃(DDoS 攻撃)の現状を学び、エンドネットワークとしての地域特性を解説する。</p> <p>(18 日下部 茂／2回)</p> <p>地域課題解決も例題にセキュリティバイデザインを学ぶ。</p> <p>(1)セキュリティバイデザインの観点から、プロセスのモデリングについて学ぶ。地域課題解決を例題にシステムエンジニアリングでのモデリングについて学ぶ。</p> <p>(2)セキュリティバイデザインの観点から、地域課題解決を例題に厳密な仕様の記述に</p>	<p><u>(3)デジタル署名を扱う。</u></p> <p>(25 岡田 雅之／3回)</p> <p>インターネット基盤のなかでも特に重要とされる、BGP 経路制御、DNS のセキュリティとその超大規模運用について学ぶ。</p> <p>(1)インターネット番号資源の管理とその運用状況について演習し、インターネット基盤セキュリティを考える上での前提条件を学修する。キャリア、ISP、エンタープライズレベルでの番号資源のセキュリティを扱う。</p> <p>(2) <u>セキュリティの confidentiality, integrity, availability とインターネットに関し、抽象概念と現実の状況を捉え、実用的な取り扱いを学ぶ。知識を活用し、今起こっているインシデントを分析する手法を修得する。</u></p> <p>(3) <u>ネットワークセキュリティを脅かす脅威の中から、分散型サービス不能攻撃(DDoS 攻撃)の現状を学び、対策と困難度合いの理解を議論形式で深める。DDoS 攻撃の普遍的な手法から近代的な手法を扱う。</u></p> <p>(18 日下部 茂／3回)</p> <p><u>セキュリティバイデザインの観点から、開発の工程における要所を学ぶ。</u></p> <p>(1) <u>プロセスのモデリングについて学ぶ。</u></p> <p>(2) 厳密な仕様の記述に効果的な数理的モデリングについて学ぶ。</p> <p>(3) <u>システムエンジニアリングでのモデリングについて学ぶ。</u></p>

新旧対照表「情報セキュリティ特講」の授業科目の概要

新	旧
<p>効果的な数理的モデリングについて学ぶ。</p> <p>(37 喜多 義弘／2回) 生体情報から本人を識別する高度な手法について学びつつ、生体認証分野における地域課題を解決へつなげるための能力を身につける。 (1)生体認証の基本的な概念を中心に、生体認証の手法や地域社会における取り組みについて学ぶ。 (2)生体認証にて本人の識別に用いる機械学習法について学び、その課題を含む地域課題の解決法についてディスカッションを行う。</p> <p>(24 島 成佳／2回) セキュリティインシデント対応の課題と対応の科学的アプローチについて学ぶ。 (1)セキュリティインシデントの管理運用におけるインシデントレスポンの現状について解説する。 (2)セキュリティインシデントの管理運用における課題とその対処の科学的アプローチについて解説する。</p> <p>(35 齋藤 正也／2回) 時系列解析手法の数理および実装を適時地域課題を通して学ぶ。 (1)時系列解析に用いる基本的なモデルおよび適時地域課題への適用事例を学ぶ。特に、モンテカルロ法での実装に力点を置き、既存のシミュレーションモデルをプラグインすることで全体の解析系を構成できることを理解させる。</p>	<p>(37 喜多 義弘／3回) <u>生体認証の技術の基本的手法や最先端の手法を把握し、適用を検討する。</u> (1)生体認証の基本的な概念を中心に、生体認証の手法や<u>その課題</u>について学ぶ。 (2)生体認証にて本人の識別に用いる機械学習法について学び、その課題や解決法についてディスカッションを行う。 <u>(3)生体認証の今後の在り方について、ディスカッションを行う。</u></p>

新旧対照表「情報セキュリティ特講」の授業科目の概要

新	旧
(2) 事前分布の設計やアルゴリズムの並列化など推定性能を確保するための実装上の技術を紹介する。	

新旧対照表「人間情報科学特講」の授業科目の概要

新	旧
<p>(概要)</p> <p>地域情報工学における人間中心システムの構築のための技術要素として人間情報科学における5つの主題について基礎理解を深化させる。</p> <p>(A)地理情報処理、(B)データベース (DB) 技術、(C)観光情報サービス、(D)色彩情報、(E)感性情報処理</p> <p>(23 平岡 透/3回)</p> <p>地理情報システムを用いた空間データ分析の原理を理解し、地域課題への応用力を身につける。</p> <p>(1)空間データと地理情報システムについて学び、地域課題への適用事例を紹介する。</p> <p>(2)点パターン分析とネットワーク分析について学び、地域課題への適用事例を紹介する。</p> <p>(3)空間相関分析と空間補間について学び、地域課題への適用事例を紹介する。</p> <p>(17 ソムチャイ チャットウィチェンチャイ/3回)</p> <p>研究者として、従来のデータベース技術と最新のデータベース技術を包括的に理解し、研究やビジネスの要求に適したデータベースシステムについて学修する。</p> <p>(1)DB システムやデータモデルについて学ぶ。</p> <p>(2)代表的な設計図 (ER 図) による DB 設計・DB 構築について、地域の課題への適用例を交えて学ぶ。</p> <p>(3)DB 標準言語 (SQL) とその他の方法での DB データ照会について、地域の課題への適</p>	<p>(概要)</p> <p>人間情報科学における5つの主題について基礎理解を深化させる。</p> <p>(A)地理情報処理、(B)データベース (DB) 技術、(C)観光情報サービス、(D)色彩情報、(E)感性情報処理</p> <p>(23 平岡 透/3回)</p> <p>地理情報システムを用いた空間データ分析の原理を理解し、<u>その</u>応用力を身につける。</p> <p>(1)空間データと地理情報システムについて<u>学ぶ</u>。</p> <p>(2)点パターン分析とネットワーク分析について<u>学ぶ</u>。</p> <p>(3)空間相関分析と空間補間について<u>学ぶ</u>。</p> <p>(17 ソムチャイ チャットウィチェンチャイ/3回))</p> <p><u>データベースに関する基礎概念を修得する。</u></p> <p>(1)<u>リレーショナル型 DB の基本を学ぶ。具体的には、関係代数と集合演算、関係代数と関係演算、インデックスとビュー、ロックとトランザクションなどについて学ぶ。</u></p> <p>(2)<u>リレーショナル型 DB のデータの定義 (DDL)・データの操 (DML)・DB のコントロール (DCL) について学ぶ。</u></p> <p>(3)<u>DB 運用・管理の基本を学ぶ。具体的には、DB のバックアップ、ユーザー・権限の</u></p>

新旧対照表「人間情報科学特講」の授業科目の概要

新	旧
<p>用例を交えて学ぶ。</p> <p>略</p> <p>(21 片山 徹也／3回) 色彩に対する人間の認識の情報科学による分析と把握について学修する。 (1)色知覚のメカニズム、色彩調和論、表色系とカラースペース、色覚特性等、色彩情報に係る主要理論を俯瞰し、地域における課題事例を紹介する。 (2)デジタル空間における色彩情報の取扱手法について、色度測定、カラープロファイル等を用いて習得し、地域課題に対する活用法を紹介する。 (3)色彩情報が人間に及ぼす影響を分析するためのアプローチ方法として、印象評価データの定量化と解析について学び、地域課題への適用方法を紹介する。</p> <p>(36 飛谷 謙介／3回) 人間の感性を客観的に取扱う種々の心理学的・数理的手法を学修する。また、当該手法による地域社会における QOL 向上を促す方法について学ぶ。 (1)感覚・感性を測定するための心理学的手法について、また、感性の指標化・定量化を目的とした測定データに対する統計解析手法についてそれぞれ学ぶ。 (2)定量化した感性と対象の物理量との関係性をモデル化する機械学習手法について学ぶ。 (3)これまでに学んだ感性情報処理の知識</p>	<p><u>管理、DB サーバーの監視、DB のセキュリティなどについて学ぶ。</u></p> <p>略</p> <p>(21 片山 徹也／3回) 色彩に対する人間の認識の情報科学による分析と把握について学修する。 (1)色知覚のメカニズム、色彩調和論、表色系とカラースペース、色覚特性等、色彩情報に係る主要理論を俯瞰する。 (2)デジタル空間における色彩情報の取扱手法について、色度測定、カラープロファイル等を用いて習得する。 (3)色彩情報が人間に及ぼす影響を分析するためのアプローチ方法として、印象評価データの定量化と解析について<u>知る。</u></p> <p>(36 飛谷 謙介／3回) 人間の感性を客観的に取扱う種々の心理学的・数理的手法を学修する。 (1)感性を測定するための心理学的手法について<u>事例を交えつつ学ぶ。</u> (2)<u>感性の指標化・定量化を目的とした測定データに対する統計解析手法について学ぶ。</u> (3)<u>定量化した感性と対象の物理量との関係性をモデル化する機械学習手法について学ぶ。</u></p>

新旧対照表「人間情報科学特講」の授業科目の概要

新	旧
を用い、地域社会における QOL（生活の質）に直結する心の豊かさ（感性価値）をもたらす方法について、実例を交え学ぶ。	

新旧対照表「基礎栄養科学特講」の授業科目の概要

新	旧
<p>(概要)</p> <p>基礎栄養科学分野を担当する全教員がその専門的な立場からオムニバス方式で自分の専門領域について講義し、「健康と栄養科学・生命科学」に関する基礎研究領域についての幅広い高度な専門領域の理解を深めることによって、特別研究（Ⅰ～Ⅲ）の中で行う研究の位置づけや他の研究との関連性をより明確にすると共に、研究者としての資質向上に資することを目的とする。さらにこれらの各専門領域の基礎研究が地域の健康維持・増進や活性化にどのように貢献しているかについての事例の提示やディスカッションを含めた講義も行う。</p> <p>(39 松澤 哲宏/2回)</p> <p>栄養健康科学における食品衛生学分野の研究手法や研究動向および地域の活性化につながる方策について基礎研究の側面から考究する。</p> <p>(29 柴崎 貢志/2回)</p> <p>栄養健康科学における細胞生化学分野の研究手法や研究動向および地域の活性化につながる方策について基礎研究の側面から考究する。</p> <p>(27 古場 一哲/2回)</p> <p>栄養健康科学における食品機能学分野の研究手法や研究動向および地域の活性化につながる方策について基礎研究の側面から考究する。</p>	<p>(概要)</p> <p>基礎栄養科学分野を担当する全教員がその専門的な立場からオムニバス方式で自分の専門領域について講義し、「健康と栄養科学・生命科学」に関する基礎研究領域についての幅広い高度な専門領域の理解を深めることによって、特別研究（Ⅰ～Ⅲ）の中で行う研究の位置づけや他の研究との関連性をより明確にすると共に、研究者としての資質向上に資することを目的とする。</p> <p>(39 松澤 哲宏/2回)</p> <p><u>栄養科学</u>における食品衛生学分野の研究手法や研究動向について基礎研究の側面から考究する。</p> <p>(29 柴崎 貢志/2回)</p> <p><u>栄養科学</u>における細胞生化学分野の研究手法や研究動向について基礎研究の側面から考究する。</p> <p>(27 古場 一哲/2回)</p> <p><u>栄養科学</u>における食品機能学分野の研究手法や研究動向について基礎研究の側面から考究する。</p>

新旧対照表「基礎栄養科学特講」の授業科目の概要

新	旧
<p>(30 倉橋 拓也/2回)</p> <p>栄養健康科学における有機化学分野の研究 方法や研究動向および地域の活性化につ ながる方策について基礎研究の側面から考 究する。</p>	<p>(30 倉橋 拓也/2回)</p> <p><u>栄養科学</u>における有機化学分野の研究方 法や研究動向について基礎研究の側面から 考究する。</p>
<p>(41 城内 文吾/2回)</p> <p>栄養健康科学における代謝栄養学分野の 研究方法や研究動向および地域の活性化に つながる方策について基礎研究の側面から 考究する。</p>	<p>(41 城内 文吾/2回)</p> <p><u>栄養科学</u>における代謝栄養学分野の研究 方法や研究動向について基礎研究の側面か ら考究する。</p>
<p>(38 駿河 和仁/2回)</p> <p>栄養健康科学における栄養生理学分野の 研究方法や研究動向および地域の活性化に つながる方策について基礎研究の側面から 考究する。</p>	<p>(38 駿河 和仁/2回)</p> <p><u>栄養科学</u>における栄養生理学分野の研究 方法や研究動向について基礎研究の側面か ら考究する。</p>
<p>(31 田中 進/2回)</p> <p>栄養健康科学における解剖生理学分野の 研究方法や研究動向および地域の活性化に つながる方策について基礎研究の側面から 考究する。</p>	<p>(31 田中 進/2回)</p> <p><u>栄養科学</u>における解剖生理学分野の研究 方法や研究動向について基礎研究の側面か ら考究する。</p>
<p>略</p>	<p>略</p>

新旧対照表「実践栄養科学特講」の授業科目の概要

新	旧
<p>(概要)</p> <p>実践栄養科学分野を担当する全教員がその専門的な立場からオムニバス方式で自分の専門領域について講義し、「健康と栄養、食生活、運動」に関する実践研究領域についての幅広い高度な専門領域の理解を深めることによって、特別研究（Ⅰ～Ⅲ）の中で行う研究の位置づけや他の研究との関連性をより明確にすると共に、研究者としての資質向上に資することを目的とする。さらにこれらの各専門領域の実践研究を推進する上でどのような地域との連携が必要かについての事例の提示やディスカッションを含めた講義も行う。</p> <p>(26 大曲 勝久／3回)</p> <p>栄養健康科学における臨床栄養学分野の研究手法や研究動向および地域の活性化につながる方策について実践研究の側面から考究する。</p> <p>(28 世羅 至子／3回)</p> <p>栄養健康科学における生活習慣病予防学分野の研究手法や研究動向および地域の活性化につながる方策について実践研究の側面から考究する。</p> <p>(40 飛奈 卓郎／2回)</p> <p>栄養健康科学における健康体力科学分野の研究手法や研究動向および地域の活性化につながる方策について実践研究の側面から考究する。</p>	<p>(概要)</p> <p>実践栄養科学分野を担当する全教員がその専門的な立場からオムニバス方式で自分の専門領域について講義し、「健康と栄養、食生活、運動」に関する<u>基礎</u>研究領域についての幅広い高度な専門領域の理解を深めることによって、特別研究（Ⅰ～Ⅲ）の中で行う研究の位置づけや他の研究との関連性をより明確にすると共に、研究者としての資質向上に資することを目的とする。</p> <p>(26 大曲 勝久／3回)</p> <p><u>栄養科学</u>における臨床栄養学分野の研究手法や研究動向について実践研究の側面から考究する。</p> <p>(28 世羅 至子／3回)</p> <p><u>栄養科学</u>における生活習慣病予防学分野の研究手法や研究動向について実践研究の側面から考究する。</p> <p>(40 飛奈 卓郎／2回)</p> <p><u>栄養科学</u>における健康体力科学分野の研究手法や研究動向について実践研究の側面から考究する。</p>

新旧対照表「実践栄養科学特講」の授業科目の概要

新	旧
<p>(43 石見 百江/2回)</p> <p>栄養健康科学における栄養管理学分野の研究 方法や研究動向および地域の活性化に つながる方策について実践研究の側面から 考究する。</p>	<p>(43 石見 百江/2回)</p> <p><u>栄養科学</u>における栄養管理学分野の研究 方法や研究動向について実践研究の側面か ら考究する。</p>
<p>(44 本郷 涼子/2回)</p> <p>栄養健康科学における給食管理学分野の 研究方法や研究動向および地域の活性化に つながる方策について実践研究の側面から 考究する。</p>	<p>(44 本郷 涼子/2回)</p> <p><u>栄養科学</u>における給食管理学分野の研究 方法や研究動向について実践研究の側面か ら考究する。</p>
<p>(45 竹内 昌平/2回)</p> <p>栄養健康科学における栄養疫学分野の研 究方法や研究動向および地域の活性化につ ながる方策について実践研究の側面から考 究する。</p>	<p>(45 竹内 昌平/2回)</p> <p><u>栄養科学</u>における栄養疫学分野の研究方 法や研究動向について実践研究の側面から 考究する。</p>
<p>略</p>	<p>略</p>

(新旧対照表)「アカデミックスキル特講」のシラバス

新	旧
<p>【担当者職・氏名】 教授・平岡 透 (科目責任者)</p> <p>【授業概要とテーマ】 複雑多様化する地域社会の諸問題に対して、高度な専門的知識を備え、さらに、異なる専門領域と協働することで問題解決を図ることができる研究者としての基本的なスキルの修得を目指した授業である。具体的には、望ましい倫理規範の会得、研究のプロセス、すなわち、研究課題の設定、文献検討の方法、研究デザインの組み立て、研究方法の設定、結果の解釈、総括等の方法のほか、研究論文の構成および論文発表の必要性や効果的な発表方法の獲得のための内容が展開される。なお、この授業では1テーマにつき3回の授業において異分野の教員がチームで取り組み協力することで、受講生の専門分野とその周辺領域の観点から研究の拡大と深化を支援する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 受講生自身の専門分野における研究の最近の動向、研究課題、研究倫理、研究デザイン、研究結果の解釈方法、研究論文の構成および論文発表の必要性や効果的な発表方法を理解し活用できる。 2) 受講生自身の専門分野だけでなく、他分野の研究の最近の動向、研究課題、研究倫理、研究デザイン、研究結果の解釈の方法の概略を理解できる。 3) 略 <p>【授業計画】</p>	<p>【担当者職・氏名】 教授・<u>太曲勝久</u> (科目責任者)</p> <p>【授業概要とテーマ】 複雑多様化する地域社会の諸問題に対して、高度な専門的知識を備え、さらに、異なる専門領域と協働することで問題解決を図ることができる研究者として望ましい倫理規範を身につけ、研究のプロセス、すなわち、研究課題の設定、文献検討の方法、研究デザインの組み立て、研究方法の設定、結果の解釈、総括等の方法を<u>教授する。さらに研究論文の構成および論文発表の必要性や効果的な発表方法を概説する。</u></p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) <u>自分</u>の専門分野における研究の最近の動向、研究課題、研究倫理、研究デザイン、研究結果の解釈方法、研究論文の構成および論文発表の必要性や効果的な発表方法を理解し活用できる。 2) <u>自分</u>の専門分野だけでなく、他分野の研究の最近の動向、研究課題、研究倫理、研究デザイン、研究結果の解釈の方法の概略を理解できる。 3) 略 <p>【授業計画】</p>

<p>研究倫理を考える—基礎的な理解</p> <p>地域社会マネジメント分野、情報工学分野、栄養科学分野から成る本専攻科に共通する論文の適正・適切な引用方法、データ改ざん・捏造等の禁止、二重投稿の禁止、オーサーシップなど、研究者として知っておくべき基礎的な研究倫理の留意点を解説する。</p> <p>(橋本(松本)優花里・島 成佳・大曲勝久)</p>	<p>地域社会マネジメント分野における研究の最近の動向</p> <p><u>地域社会マネジメント分野を構成する経営学、経済学、政策科学、法学・政治学、国際関係論、メディア論及び認知科学などに関連する社会科学・人間科学領域のうち、担当教員の研究における最近の動向を踏まえて受講生の研究を支援する。</u></p> <p><u>(宮地晃輔)</u></p>
<p>研究倫理を考える—専門分野に特徴的な理解</p> <p>第1回授業の内容を踏まえ、地域社会マネジメント分野、情報工学分野、栄養科学分野のうち、受講生の専門分野に特徴的な研究倫理の留意点を解説する。</p> <p>(橋本(松本)優花里・島 成佳・大曲勝久)</p>	<p>地域社会マネジメント分野における研究課題</p> <p><u>地域社会マネジメント分野を構成する経営学、経済学、政策科学、法学・政治学、国際関係論、メディア論及び認知科学などに関連する社会科学・人間科学領域のうち、担当教員の研究における課題を踏まえて受講生の研究課題設定を支援する。</u></p> <p><u>(荻野晃)</u></p>
<p>研究倫理を考える—専門分野以外との比較を通じた理解</p> <p>地域社会マネジメント分野、情報工学分野、栄養科学分野のうち、受講生の専門分野以外の分野での研究倫理の留意点を概説するとともに、それらと受講生の専門分野の内容との比較を通じて受講生の研究を遂行する上での課題を検討する。</p> <p>(橋本(松本)優花里・島 成佳・大曲勝久)</p>	<p>地域社会マネジメント分野における研究倫理</p> <p><u>地域社会マネジメント分野を構成する経営学、経済学、政策科学、法学・政治学、国際関係論、メディア論及び認知科学などに関連する社会科学・人間科学領域のうち、担当教員の研究における倫理的留意点を踏まえて受講生の研究を支援する。</u></p> <p><u>(橋本(松本)優花里)</u></p>
<p>最新の研究動向について知る—基礎的な理解</p> <p>地域社会マネジメント分野、情報工学分野、栄養科学分野から成る本専攻科に共通</p>	<p>地域社会マネジメント分野における研究デザイン</p> <p><u>地域社会マネジメント分野を構成する経営学、経済学、政策科学、法学・政治学、国</u></p>

<p>する、地域創生に関わる基礎的な研究動向を解説する。</p> <p>(宮地晃輔・平岡 透・城内文吾)</p>	<p><u>際関係論、メディア論及び認知科学などに関連する社会科学・人間科学領域のうち担当教員の研究手法を踏まえて受講生の研究デザインの組み立て方を指導する。</u></p> <p><u>(関谷融)</u></p>
<p>最新の研究動向について知る—専門分野に特徴的な理解</p> <p>地域社会マネジメント分野、情報工学分野、栄養科学分野のうち、受講生の専門分野に特徴的な研究の動向を解説する。</p> <p>(宮地晃輔・平岡 透・城内文吾)</p>	<p><u>地域社会マネジメント分野における研究結果の解釈</u></p> <p><u>地域社会マネジメント分野を構成する経営学、経済学、政策科学、法学・政治学、国際関係論、メディア論及び認知科学などに関連する社会科学・人間科学領域のうち、担当教員の研究手法を踏まえて受講生の研究結果の解釈、総括等の方法を教授する。</u></p> <p><u>(神保充弘)</u></p>
<p>最新の研究動向について知る—専門分野以外との比較を通じた理解</p> <p>地域社会マネジメント分野、情報工学分野、栄養科学分野のうち、受講生の専門分野以外の分野の研究動向について概説し、受講生の専門分野の内容との比較を通じて受講生の研究を発展させるための視点を提供する。</p> <p>(宮地晃輔・平岡 透・城内文吾)</p>	<p><u>情報工学分野における研究の最近の動向</u></p> <p><u>情報工学領域のうち、担当教員の研究における最近の動向を踏まえて受講生の研究を支援する。</u></p> <p><u>(平岡 透)</u></p>
<p>研究課題を設定する—基礎的な理解</p> <p>地域社会マネジメント分野、情報工学分野、栄養科学分野から成る本専攻科に共通する、地域創生に関わる基礎的な研究課題についてホットトピックを解説する。</p> <p>(荻野 晃・星野文学・大曲勝久)</p>	<p><u>情報工学分野における研究課題</u></p> <p><u>情報工学領域のうち、担当教員の研究における課題を踏まえて受講生の研究課題設定を支援する。</u></p> <p><u>(星野文学)</u></p>
<p>研究課題を設定する—専門分野に特徴的な理解</p>	<p><u>情報工学分野における研究倫理</u></p> <p><u>情報工学領域のうち、担当教員の研究に</u></p>

<p>地域社会マネジメント分野、情報工学分野、栄養科学分野のうち、受講生の専門分野に特徴的な研究課題について解説する。 (荻野 晃・星野文学・大曲勝久)</p>	<p><u>における倫理を踏まえて受講生の研究を支援する。</u> <u>(島 成佳)</u></p>
<p>研究課題を設定する—専門分野以外との比較を通じた理解</p> <p>地域社会マネジメント分野、情報工学分野、栄養科学分野のうち、受講生の専門分野以外の分野の研究課題におけるホットトピックを概説し、受講生の専門分野の内容との比較を通じて受講生の研究の深化を図る。 (荻野 晃・星野文学・大曲勝久)</p>	<p>情報工学分野における研究デザイン</p> <p><u>画像処理や感性情報処理などの情報工学に関する研究事例を踏まえて受講生の研究デザインの組み立て方を指導する。</u> <u>(飛谷謙介)</u></p>
<p>研究をデザインする—基礎的な理解</p> <p>地域社会マネジメント分野、情報工学分野、栄養科学分野から成る本専攻科に共通する、地域創生に向けた基礎的な研究のデザインの方法を解説する。 (関谷 融・飛谷謙介・松澤哲宏)</p>	<p>情報工学分野における研究結果の解釈</p> <p><u>情報工学分野を構成する情報工学領域のうち、担当教員の研究手法を踏まえて受講生の研究結果の解釈、総括等の方法を教授する。</u> <u>(片山徹也)</u></p>
<p>研究をデザインする—専門分野に特徴的な理解</p> <p>地域社会マネジメント分野、情報工学分野、栄養科学分野のうち、受講生の専門分野に特徴的な研究のデザイン方法を解説する。(関谷 融・飛谷謙介・松澤哲宏)</p>	<p>栄養科学分野における研究の最近の動向</p> <p><u>栄養科学分野における基礎研究や応用研究の最近の動向を踏まえて受講生の研究を支援する。</u> <u>(城内文吾)</u></p>
<p>研究をデザインする—専門分野以外との比較を通じた理解</p> <p>地域社会マネジメント分野、情報工学分野、栄養科学分野のうち、受講生の専門分野以外の分野の研究のデザイン方法を概説するとともに、受講生の専門分野の内容との比較を通じて受講生の研究デザインの充</p>	<p>栄養科学分野における研究課題</p> <p><u>栄養科学分野における基礎研究を中心に研究課題の設定の方法を踏まえて受講生の研究を支援する。</u> <u>(城内文吾)</u></p>

<p>実を図る。 (関谷 融・飛谷謙介・松澤哲宏)</p> <p>研究結果を分析し、解釈する—基礎的な理解 地域社会マネジメント分野、情報工学分野、栄養科学分野から成る本専攻科に共通する、地域創生を念頭に置いた基礎的な研究結果の分析方法と結果の解釈、総括等の方法について解説する。 (関谷 融・片山徹也・大曲勝久)</p> <p>研究結果を分析し、解釈する—専門分野に特徴的な理解 地域社会マネジメント分野、情報工学分野、栄養科学分野のうち、受講生の専門分野に特徴的な研究結果の分析方法と結果の解釈、総括等の方法について解説する。 (荻野 晃・片山徹也・大曲勝久)</p> <p>研究結果を分析し、解釈する—専門分野以外との比較を通じた理解 地域社会マネジメント分野、情報工学分野、栄養科学分野のうち、受講生の専門分野以外の分野での研究結果の分析方法と結果の解釈、総括等の方法について概説し、受講生の専門領域の内容との比較を通じて、研究成果を多角的に検討する方法を支援する。 (宮地晃輔・片山徹也・大曲勝久)</p> <p>【成績評価の方法】 レポート(講義の理解度を評価)・・・80% ディスカッション(参加姿勢も評価)・・・20%</p>	<p><u>栄養科学分野における研究倫理</u> <u>栄養学を含む健康科学分野における研究者倫理について、研究者の行動規範(不正行為等)およびヒトや動物を対象とした研究の意義・あり方などを踏まえて受講生の研究を支援する。</u> <u>(大曲勝久)</u></p> <p><u>栄養科学分野における研究デザイン</u> <u>栄養科学分野における研究デザインの立て方を踏まえて受講生の研究を支援する。</u> <u>(松澤哲宏)</u></p> <p><u>栄養科学分野における研究結果の解釈</u> <u>栄養科学分野における研究結果の解釈およびまとめ方、結果の発表(学会、学術論文等)の方法を踏まえて受講生の研究を支援する。</u> <u>(松澤哲宏)</u></p> <p>【成績評価の方法】 <u>講義の理解度をレポートにて評価する(80%)。</u> <u>また、ディスカッションなどの学習態度も評価の対象となる(20%)。</u></p>
---	--

<p>【授業の特徴】 地域創生学専攻の 3 つの専門分野の教員が 3 人 1 チームとなり、研究動向、研究課題、研究倫理、研究デザイン、研究結果の解釈の 5 つの観点から、それぞれの専門性を踏まえながら受講生の研究を学際的に支援する。メディア授業。</p>	<p>【授業の特徴】 <u>大学院担当教員のオムニバス形式による授業、メディア授業。</u></p>
---	---

(新旧対照表)「地域創生学特講」のシラバス

新	旧
<p>【授業概要とテーマ】</p> <p>複雑多様化する地域社会の諸問題に対して、高度な専門的知識を備え、さらに、異なる専門領域と協働することで問題解決を図るための多角的な視点の獲得を目指す。すなわち、受講生がこれまで培った専門知識を一層高度化させ、かつ、地域経済、経営、メディア、情報工学、栄養健康科学分野の知識を組み合わせ・活用することで地域貢献に資するためのつなぐ力の獲得を主眼とする。そのために、地域社会マネジメント分野、地域情報工学分野、人間栄養健康科学分野の担当教員が、これらの領域と地域創生との関連性について、3分野が相互に関連して地域課題解決に応用される例として、主に①地域社会の持続可能性、②地域社会における生活と経済、③地域社会のグローバル化、④地域社会のアクセシビリティ、⑤地域社会の健康維持の5つの観点から講義を行うとともに各観点が地域創生に果たす役割について考え、その実現に向けた方策について検討する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>1) 地域社会の課題を解決するために、<u>受講生自身の専門分野の知識や技術を基に</u>、異なる専門分野と協働した方策の必要性及び重要性が理解できる。</p> <p>2) 学問領域を超えた広い視野に立って地域社会の問題を解決するために必要な基礎的知識を獲得し、組み合わせて活用することができる。</p>	<p>【授業概要とテーマ】</p> <p>複雑多様化する地域社会の諸問題に対して、高度な専門的知識を備え、さらに、異なる専門領域と協働することで問題解決を図るために、<u>これまで培った専門知識と技術を一層高度化させ、かつ、地域経済、経営、メディア、情報工学、栄養健康科学分野の知識を幅広く活用して地域貢献に資するための方策を修得させる。そのために、地域社会マネジメント分野、地域情報工学分野、人間栄養健康科学分野の担当教員がこれらの領域の関連性および地域創生実現のための方策について、主に地域社会の持続可能性、地域社会における生活と経済、地域社会のグローバル化、地域社会のアクセシビリティ、地域社会の健康維持の観点から講義を行う。</u></p> <p>【到達目標】</p> <p>1) 地域社会の課題を解決するために、自身の専門分野の知識や技術を基に、異なる専門分野と協働した方策の重要性が理解できる。</p> <p>2) 学問領域を超えた広い視野に立って地域社会の問題を<u>解決できるように必要な基礎的知識を持っている。</u></p>

<p>【授業計画】</p> <p>総論</p> <p>本科目の内容とねらいについて概略を紹介する。そして、ドイツ中世都市の発展と現状などを事例としながら地域の成り立ちとあり方の一端について検討するとともに、歴史学的なアプローチが地域創生の実現の鍵となる可能性について理解が深まるよう、地域についての史的考察とその意義の解説を加える。</p> <p>(谷澤 毅)</p> <p>地域マネジメント分野から考える地域社会の持続可能性へのアプローチ</p> <p>地域社会を含めた持続可能社会を構築する上での課題について協働型ガバナンスと合意形成論の観点から、自然科学・生命科学の専門家もかかわった自然再生事業、感染症対策、社会資本整備、人材育成の事例に基づき地域創生のヒントを探る。</p> <p>(石田 聖)</p> <p>地域情報工学分野から考える地域社会の持続可能性へのアプローチ</p> <p>観光サービスマーケティングと観光サービスデザインについての事例研究を通して、観光情報システムが地域外食産業や食文化の活性化といった地域創生に果たす役割を考え、それにより未来を創造する発想力を身に付けることを目指す。</p> <p>(吉村元秀)</p> <p>人間栄養健康科学分野から考える地域社会の持続可能性へのアプローチ</p> <p>食品の機能性に関する研究は、食品系企</p>	<p>【授業計画】</p> <p>総論</p> <p><u>-地域についての史的考察とその意義</u></p> <p>本科目の内容とねらいについて概略を紹介したのち、<u>ドイツ中世都市の発展と現状</u>などを事例としながら地域の成り立ちとあり方の一端について検討し、<u>合わせて</u>歴史学的なアプローチが持つ可能性について理解が深まるよう解説を加える。</p> <p>(谷澤 毅)</p> <p>地域社会の持続可能性 1</p> <p><u>-持続可能社会を構築するための課題</u></p> <p>地域社会を含めた持続可能社会を構築する上での課題について協働型ガバナンスと合意形成論の観点から自然科学・生命科学の専門家もかかわった自然再生事業、感染症対策、社会資本整備、人材育成の事例に基づき<u>検討する</u>。</p> <p>(石田 聖)</p> <p>地域社会の持続可能性 2</p> <p><u>-地域社会における観光情報</u></p> <p>観光サービスマーケティングと観光サービスデザインについての事例研究を通して、観光情報システムが地域外食産業や食文化の活性化のために<u>目指す未来を創造する</u>発想力を身に付けることを目指す。</p> <p>(吉村元秀)</p> <p>地域社会の持続可能性 3</p> <p><u>-食品開発と地域経済の活性化</u></p> <p>食品の機能性に関する研究は、食品系企</p>
--	--

<p>業や地域経済の活性化にとってもますます重要な戦略の一つになっている。近年の研究の中から、特に脂質代謝調節に関する食品機能の研究について概説し、食品開発が地域創生に果たす役割を考える。</p> <p>(古場一哲)</p>	<p>業や地域経済の活性化にとってもますます重要な戦略の一つになっている。近年の研究の中から、特に脂質代謝調節に関する食品機能の研究について概説する。</p> <p>(古場一哲)</p>
<p>地域情報工学分野から考える地域社会の生活と経済の関連性へのアプローチ</p> <p>企業誘致や地域定住に深く関わるリモートワーク・テレワークや食生活・健康増進の情報共有に欠かせないインターネット基盤について、経路制御、名前解決に関わる最新のセキュリティ技術とその運用について学び、それらが地域創生に果たす役割について考える。</p> <p>(岡田雅之)</p>	<p>地域社会における生活と経済 1</p> <p><u>-ネットワークセキュリティ</u></p> <p>企業誘致や地域定住に深く関わるリモートワーク・テレワークや食生活・健康増進の情報共有に欠かせないインターネット基盤について、経路制御、名前解決に関わる最新のセキュリティ技術とその運用について学ぶ。</p> <p>(岡田雅之)</p>
<p>人間栄養健康科学分野から考える地域社会の生活と経済の関連性へのアプローチ</p> <p>運動習慣形成に有効な情報発信とは？健康増進による地域の経済効果は？等も含めて、健康増進が地域創生に果たす役割について皆で意見を出し合い、現在の地域が有する問題解決に向けた検討を行う。</p> <p>(飛奈卓郎)</p>	<p>地域社会における生活と経済 2</p> <p><u>-健康増進による地域の経済効果</u></p> <p>運動習慣形成に有効な情報発信とは？健康増進による地域の経済効果は？等も含めて、皆で意見を出し合い<u>今後の</u>問題解決に向けた検討をする。</p> <p>(飛奈卓郎)</p>
<p>地域社会マネジメント分野から考える地域社会のグローバル化へのアプローチ</p> <p>グローバル化の進展に伴い、様々な国から日本にやってくる人々へ社会生活を行う上で必要な各種のサービスを的確に提供することが求められている。この回では、感染症対策を含め入国管理や在資格等について法律に関する専門知識を共有し、共生社会での地域創生を考える。</p>	<p>地域社会のグローバル化 1</p> <p><u>-国際法から見た日本のグローバル化</u></p> <p>グローバル化の進展に伴い様々な国から日本にやってくる人々へ社会生活を行う上で必要な各種のサービスを的確に提供することが求められている。この回では、感染症対策を含め入国管理や在資格等について専門知識を共有する。</p>

<p>(福島涼史)</p> <p>地域情報工学分野から考える地域社会のグローバル化へのアプローチ</p> <p>地域の少額即時決済あるいは体調等の個別スマートサービス等において必須となる、人・動物や農産物・工業製品の即時識別のための生体認証を通じ、身近にある生体情報とそれを活用した認証技法、および個人やモノを識別するための機械学習法に関する知識を学ぶ。そして、生体認証技術が地域創生に果たす役割について考える。</p> <p>(喜多義弘)</p>	<p>(福島涼史)</p> <p>地域社会のグローバル化 2</p> <p><u>-生体認証技術</u></p> <p>地域の少額即時決済、或いは体調等の個別スマートサービス等において必須となる、人・動物や農産物・工業製品の即時識別のための生体認証を通じ、身近にある生体情報とそれを活用した認証技法、および、個人やモノを識別するための機械学習法に関する知識を学ぶ。</p> <p>(喜多義弘)</p>
<p>人間栄養健康科学分野から考える地域社会のグローバル化へのアプローチ</p> <p>地域の高齢者の健康維持に影響する可能性がある買い物行動や、人口構成が変わることによる感染症の基本再生産数の変化などについて概説する。そして、高齢者の健康維持と地域創生の関係について考えたうえで、現在の地域が有する問題解決に向けた栄養疫学分野からのアプローチを検討する。</p> <p>(竹内昌平)</p>	<p>地域社会のグローバル化 3</p> <p><u>-地域の高齢者の健康維持に対する栄養疫学分野からのアプローチ</u></p> <p>地域の高齢者の健康維持に影響する可能性がある買い物行動や、人口構成が変わることによる感染症の基本再生産数の変化などについて概説し、問題解決に向けた検討を行う。</p> <p>(竹内昌平)</p>
<p>地域社会マネジメント分野から考える地域社会のアクセシビリティへのアプローチ</p> <p>SDGs の目標と関連しつつ、地域社会を含めた持続可能な超スマート社会を構築するためには、イノベーション能力、メディアの情報伝達、地域社会のニーズの掘り起こしなど多くの課題があることを概説する。そして、地域創生における超スマート社会の実現に向けた地域コミュニティの課題に</p>	<p>地域社会のアクセシビリティ 1</p> <p><u>-超スマート社会を構築するために必要な地域コミュニティの在り方</u></p> <p>SDGs の目標と関連しつつ、地域社会を含めた持続可能な超スマート社会を構築するためには、イノベーション能力、メディアの情報伝達、地域社会のニーズの掘り起こしなど多くの課題があることを概観し、課題について意見交換を行う。</p> <p>(賈曦)</p>

<p>ついて検討する。 (賈曦)</p> <p>地域情報工学分野から考える地域社会のアクセシビリティへのアプローチ</p> <p>地域社会で活用される情報コンテンツの色彩情報がアクセシビリティ及びユーザビリティに及ぼす影響について、デザイン学や人間工学等を踏まえた学際的観点から概説する。そして、地域創生に必要な多様な利用者にとって望ましい情報アーキテクチャの設計手法について検討する。 (片山徹也)</p> <p>人間栄養健康科学分野から考える地域社会のアクセシビリティへのアプローチ</p> <p>生活習慣病である慢性疾患を抱えた高齢者に対して、栄養を維持することが重要である。高齢者の栄養状態の改善についての意見交換を行い、特に専門医などの医療資源が不足している離島などの地域に向けてどのように情報発信していくかについて、地域創生の観点から検討する。 (世羅至子)</p> <p>地域社会マネジメント分野から考える地域社会の健康維持へのアプローチ</p> <p>地域社会において業務の継続が求められる交代制勤務者について、特有の睡眠・疲労の実態を概説する。そのうえで、リスクの所在と有用なマネジメント方法を多角的なアプローチから考察し、地域創生を担うエッセンシャルワーカーの健康維持を含めた課題について検討する。 (大重育美)</p>	<p>地域社会のアクセシビリティ2</p> <p><u>-色彩情報</u></p> <p>地域社会で活用される情報コンテンツの色彩情報がアクセシビリティ及びユーザビリティに及ぼす影響について、デザイン学や人間工学等を踏まえた学際的観点から概説し、<u>多様な利用者にとって望ましい情報アーキテクチャの設計手法について検討する。</u> (片山徹也)</p> <p>地域社会のアクセシビリティ3</p> <p><u>-地域における生活習慣病へのアプローチ</u></p> <p>生活習慣病である慢性疾患を抱えた高齢者に対して、栄養を維持することが重要である。高齢者の栄養状態の改善についての意見交換を行い、特に専門医などの医療資源が不足している離島などの地域に向けてどのように情報発信していくか、<u>皆で検討する。</u> (世羅至子)</p> <p>地域社会の健康維持1</p> <p><u>-地域社会におけるエッセンシャルワーク</u></p> <p>地域社会において業務の継続が求められる交代制勤務者について、特有の睡眠・疲労の実態を<u>通して</u>、リスクの所在と有用なマネジメント方法を多角的なアプローチから考察し、<u>健康維持を含めた課題について意見交換を行う。</u> (大重育美)</p>
---	--

<p>人間栄養健康科学分野から考える地域社会の健康維持へのアプローチ</p> <p>疾病を予防し、健康維持に必要な栄養情報を得て食事管理をするプロセスの中で、地域の人々がとる行動への動機づけや栄養教育の課題について概説する。そのうえで、地域創生に欠かせない栄養教育の在り方について考える。</p> <p>(石見百江)</p> <p>地域情報工学分野から考える地域社会の健康維持へのアプローチ</p> <p>地域社会における QOL (生活の質) に直結する「楽しさ」や「感動」といった心の豊かさ (感性価値) をもたらす新しい科学技術として、感覚・感性を指標化する手法に関する知識を修得し、感性情報学分野の基本的な資質を身につけることを目指す。そして、心の豊かさが地域創生に与える効果を考える。</p> <p>(飛谷謙介)</p> <p>【成績評価の方法】 レポート・・・50% プレゼンテーション・・・50%</p> <p>【授業の特徴】 それぞれの教員が、自己の専門分野の知見を基盤として地域創生に係る種々の課題について多角的な視点を提供し、受講生の理解を深める授業である。</p>	<p>地域社会の健康維持 2</p> <p>-感性情報</p> <p><u>地域社会における QOL (生活の質) に直結する「楽しさ」や「感動」といった心の豊かさ (感性価値) をもたらす新しい科学技術として、感覚・感性を指標化する手法に関する知識を修得し、感性情報学分野の基本的な資質を身につけることを目指す。</u></p> <p><u>(飛谷謙介)</u></p> <p>地域社会の健康維持 3</p> <p>-地域における栄養教育の重要性</p> <p><u>疾病を予防し、健康維持に必要な栄養情報を得て食事管理をするプロセスの中で、地域の人々がとる行動への動機づけや栄養教育の課題について概説する。</u></p> <p><u>(石見百江)</u></p> <p>【成績評価の方法】 <u>講義の理解度をレポートや発表にて評価する。</u> <u>また質疑応答やディスカッションへの参加状況などの学習態度も評価の対象となる。</u> <u>評価配分は、レポート 50%、発表 30%、学習態度 20%。</u></p> <p>【授業の特徴】 <u>大学院担当教員のオムニバス形式による授業。</u> <u>課題については、教員の指示により適宜提出。</u></p>
---	--

<p>【履修上の注意等（履修条件等）】 必須科目である。授業態度も評価の対象とする。単位を取得するには前提条件として授業実施回数の3分の2以上の出席を要する。課題については、教員の指示により適宜提出すること。</p>	<p>【履修上の注意等（履修条件等）】 必須科目である。授業態度も評価の対象とする。単位を取得するには前提条件として授業実施回数の3分の2以上の出席を要する。</p>
---	--

(新旧対照表)「地域創生学演習」のシラバス

新	旧
<p>【授業概要とテーマ】</p> <p>複雑多様化する地域社会の諸問題に対して、高度な専門的知識を備え、さらに、異なる専門領域と協働することで問題解決を図ることの意義の理解を深めるための内容を展開する。「地域創生学特講」で学んだ内容を基に、地域社会マネジメント分野、地域情報工学分野、人間栄養健康科学分野の担当教員から提示される、上記の3分野にまたがる実際あるいは想定される具体的な課題に対し、解決するための方策の立案方法や評価方法について1課題につき5回の演習を行う。5回目の授業では、それらの内容の関連性を踏まえたうえで統合的な発展の方策や受講生の研究テーマへの応用を検討しプレゼンテーションを行うことで学際的な研究方法について領域を超えた問題解決方法の理解を深める。また、各専門分野の基礎研究および実践研究が地域の活性化にどのように貢献しうるかを理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 略 2) 学問領域を超えた広い視野に立って、複数の分野の知識を組み合わせることで地域社会の課題解決に向けた方策を立案できる。 <p>【授業計画】</p> <p>地域社会の課題1に対する地域社会マネジメント分野からのアプローチ</p> <p>提示された地域社会の課題1に対して、主に地域における人と社会の関係性など地域社会マネジメント分野の見地から解決方法を検討する。</p>	<p>【授業概要とテーマ】</p> <p>複雑多様化する地域社会の諸問題に対して、高度な専門的知識を備え、さらに、異なる専門領域と協働することで問題解決を図ることの意義の理解を深めるために、「地域創生学特講」で学んだ内容を基に、地域社会マネジメント分野、地域情報工学分野、人間栄養健康科学分野の担当教員から提示される、上記の3分野にまたがる実際あるいは想定される具体的な課題に対して、解決するための方策の立案方法や評価方法を<u>演習する</u>。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 略 2) 学問領域を超えた広い視野に立って<u>地域社会の問題を解決できる方策を立案できる</u>。 <p>【授業計画】</p> <p><u>地域社会の課題に対する地域社会マネジメント分野からのアプローチ1</u></p> <p><u>提示された地域社会の課題に対して、地域における人と社会の関係性に関する課題(認知心理学・認知科学)</u>の見地から解決方法を検討する。</p>

<p>(大塚一徳、ソムチャイ チャットウィチェンチャイ)</p> <p>地域社会の課題 1 に対する地域情報工学分野からのアプローチ</p> <p>提示された地域社会の課題 1 に対して、主にデータを活用したビジネスインテリジェンスなど地域情報工学分野の見地から解決方法を検討する。</p> <p>(ソムチャイ チャットウィチェンチャイ、飛奈卓郎)</p> <p>地域社会の課題 1 に対する人間栄養健康科学分野からのアプローチ</p> <p>提示された地域社会の課題 1 に対して、主に地域の健康の保持など人間栄養健康科学分野の見地から解決方法を検討する。</p> <p>(飛奈卓郎、森田均)</p> <p>地域社会の課題 1 に対する地域創生の視点からの総合的アプローチ</p> <p>提示された地域社会の課題 1 に対して、地域におけるメディアやモビリティの課題を含めた地域創生の見地から解決方法を検討する。</p> <p>(森田均、大塚一徳)</p> <p>地域社会の課題 1 に対するアプローチ：検討結果の発表と討論</p>	<p>(大塚一徳)</p> <p><u>＜地域創生学特講に対応する主なテーマ：地域社会のアクセシビリティ＞</u></p> <p>地域社会の課題に対する地域社会マネジメント分野からのアプローチ 2</p> <p>提示された地域社会の課題に対して、<u>地域におけるメディアやモビリティの課題（ネットワーク社会論）</u>の見地から解決方法を検討する。</p> <p>(森田均)</p> <p><u>＜地域創生学特講に対応する主なテーマ：地域社会のグローバル化＞</u></p> <p>地域社会の課題に対する地域社会マネジメント分野からのアプローチ 3</p> <p>提示された地域社会の課題に対して、<u>地域活性化の課題（地域計画）</u>の見地から解決方法を検討する。</p> <p>(車相龍)</p> <p><u>＜地域創生学特講に対応する主なテーマ：地域社会の持続可能性、地域社会の健康維持＞</u></p> <p>地域社会の課題に対する地域社会マネジメント分野からのアプローチ 4</p> <p>提示された地域社会の課題に対して、<u>地域社会における経済発展の課題（マーケティング論）</u>の見地から解決方法を検討する。</p> <p>(神保充弘)</p> <p><u>＜地域創生学特講に対応する主なテーマ：地域社会における生活と経済＞</u></p> <p>地域社会の課題に対する地域社会マネジメント分野からのアプローチ：検討結果の発表と討論</p>
---	---

<p>これまでに検討した課題 1 に対して、さらなる発展方策や受講生の研究テーマへの応用方策を含めた総合的な検討結果の発表（プレゼンテーション）と討論を行う。 （大塚一徳、森田 均、ソムチャイ チャットウィチェンチャイ、飛奈卓郎）</p>	<p><u>これまでに検討した課題に対して、地域社会マネジメント分野の見地から、さらなる発展方策や院生の研究テーマへの応用方策を含めた総合的な検討結果の発表と討論を行う。</u> （大塚一徳、森田均、<u>車相龍</u>、<u>神保充弘</u>） <u>＜地域創生学特講に対応する主なテーマ：地域社会における生活と経済、地域社会の持続可能性＞</u></p>
<p>地域社会の課題 2 に対する地域社会マネジメント分野からのアプローチ</p> <p>提示された地域社会の課題 2 に対して、主に地域活性化(地域計画) など地域社会マネジメント分野の見地から解決方法を検討する。 （<u>車相龍</u>、<u>齋藤正也</u>）</p>	<p>地域社会の課題に対する地域情報工学分野からのアプローチ 1</p> <p>提示された地域社会の課題に対して、<u>組織内外のデータを活用したビジネスインテリジェンス</u>の見地から解決方法を検討する。 （<u>ソムチャイ チャットウィチェンチャイ</u>） <u>＜地域創生学特講に対応する主なテーマ：地域社会における生活と経済＞</u></p>
<p>地域社会の課題 2 に対する地域情報工学分野からのアプローチ</p> <p>提示された地域社会の課題 2 に対して、主に時系列データ解析など地域情報工学分野の見地から解決方法を検討する。 （<u>齋藤正也</u>、<u>竹内昌平</u>）</p>	<p>地域社会の課題に対する地域情報工学分野からのアプローチ 2</p> <p>提示された地域社会の課題に対して、<u>組織内外のデータを活用したビジネスインテリジェンス</u>の見地から解決方法を検討する。 （<u>ソムチャイ チャットウィチェンチャイ</u>） <u>＜地域創生学特講に対応する主なテーマ：地域社会のグローバル化＞</u></p>
<p>地域社会の課題 2 に対する人間栄養健康科学分野からのアプローチ</p> <p>提示された地域社会の課題 2 に対して、主に地域の栄養課題（栄養教育）など人間栄養健康科学分野の見地から解決方法を検討する。</p>	<p>地域社会の課題に対する地域情報工学分野からのアプローチ 3</p> <p>提示された地域社会の課題に対して、<u>時系列データ解析</u>の見地から解決方法を検討する。 （<u>齋藤正也</u>）</p>

<p>(石見百江、車相龍)</p> <p>地域社会の課題 2 に対する地域創生の視点からの総合的アプローチ</p> <p>提示された地域社会の課題 2 に対して、栄養疫学を含めた地域創生の見地から解決方法を検討する。</p> <p>(竹内昌平、石見百江)</p> <p>地域社会の課題 2 に対するアプローチ：検討結果の発表と討論</p> <p>これまでに検討した課題 2 に対して、さらなる発展方策や<u>受講生</u>の研究テーマへの応用方策を含めた総合的な検討結果の発表（プレゼンテーション）と討論を行う。</p> <p>(車 相龍、齋藤正也、石見百江、竹内昌平)</p> <p>地域社会の課題 3 に対する地域社会マネジメント分野からのアプローチ</p> <p>提示された地域社会の課題 3 に対して、主に経済学（マーケティング）など地域社会マネジメント分野の見地から解決方法を検討する。</p> <p>(神保充弘、吉村元秀)</p> <p>地域社会の課題 3 に対する地域情報工学分野からのアプローチ</p>	<p><u>＜地域創生学特講に対応する主なテーマ：地域社会のアクセシビリティ＞</u></p> <p>地域社会の課題に対する地域情報工学分野からのアプローチ 4</p> <p>提示された地域社会の課題に対して、<u>時系列データ解析</u>の見地から解決方法を検討する。</p> <p>(齋藤正也)</p> <p><u>＜地域創生学特講に対応する主なテーマ：地域社会の持続可能性、地域社会の健康維持＞</u></p> <p>地域社会の課題に対する地域情報工学分野からのアプローチ：検討結果の発表と討論</p> <p>これまでに検討した課題に対して、<u>地域情報工学分野の見地から</u>、さらなる発展方策や<u>院生</u>の研究テーマへの応用方策を含めた総合的な検討結果の発表と討論を行う。</p> <p>(吉村元秀)</p> <p><u>＜地域創生学特講に対応する主なテーマ：地域社会のアクセシビリティ、地域社会における生活と経済＞</u></p> <p>地域社会の課題に対する人間栄養健康科学分野からのアプローチ 1</p> <p>提示された地域社会の課題に対して、<u>地域の健康づくり支援（健康体力科学）</u>の見地から解決方法を検討する。</p> <p>(飛奈卓郎)</p> <p><u>＜地域創生学特講に対応する主なテーマ：地域社会の持続可能性、地域社会の健康維持＞</u></p> <p>地域社会の課題に対する人間栄養健康科学分野からのアプローチ 2</p>
---	---

<p>提示された地域社会の課題 3 に対して、主に知覚情報処理やソフトコンピューティングなど地域情報工学分野の見地から解決方法を検討する。</p> <p>(吉村元秀、大曲勝久)</p>	<p><u>提示された地域社会の課題に対して、地域の栄養課題 (栄養教育学) の見地から解決方法を検討する。</u></p> <p>(石見百江)</p> <p><u><地域創生学特講に対応する主なテーマ：地域社会のアクセシビリティ、地域社会の健康維持></u></p>
<p>地域社会の課題 3 に対する人間栄養健康科学分野からのアプローチ</p> <p>提示された地域社会の課題 3 に対して、主に臨床栄養学など人間栄養健康科学分野の見地から解決方法を検討する。</p> <p>(大曲勝久、古場一哲)</p>	<p>地域社会の課題に対する人間栄養健康科学分野からのアプローチ 3 (地域社会のグローバル化)</p> <p><u>提示された地域社会の課題に対して、感染症の数理情報モデル (栄養疫学) の見地から解決方法を検討する。</u></p> <p>(竹内昌平)</p> <p><u><地域創生学特講に対応する主なテーマ：地域社会のグローバル化></u></p>
<p>地域社会の課題 3 に対する地域創生の視点からの総合的アプローチ</p> <p>提示された地域社会の課題 3 に対して、食品開発を含めた地域創生の見地から解決方法を検討する。</p> <p>(古場一哲、神保充弘)</p>	<p>地域社会の課題に対する人間栄養健康科学分野からのアプローチ 4 (地域社会における生活と経済)</p> <p><u>提示された地域社会の課題に対して、栄養摂取の課題 (臨床栄養学) の見地から解決方法を検討する。</u></p> <p>(大曲勝久)</p> <p><u><地域創生学特講に対応する主なテーマ：地域社会における生活と経済、地域社会の健康維持></u></p>
<p>地域社会の課題 3 に対するアプローチ：検討結果の発表と討論</p> <p>これまでに検討した課題 3 に対して、さらなる発展方策や受講生の研究テーマへの応用方策を含めた総合的な検討結果の発表 (プレゼンテーション) と討論を行う。</p>	<p>地域社会の課題に対する人間栄養健康科学分野からのアプローチ：検討結果の発表と討論</p> <p><u>これまでに検討した課題に対して、人間栄養健康科学分野の見地から、さらなる発展方策や院生の研究テーマへの応用方策を含めた総合的な検討結果の発表と討論を行</u></p>

<p>(神保充弘、吉村元秀、大曲勝久、古場一哲)</p> <p>【成績の評価方法】 レポート（課題の分析内容、課題解決に向けた検討の成果）・・・50% プレゼンテーション（検討結果の発表と討論態度）・・・50%</p> <p>【授業の特徴】 掲げられたテーマのもとに、異なる3分野の教員がチームとなって受講生の問題解決スキルの向上を支援する授業である。メディア授業。</p> <p>【履修上の注意等（履修条件等）】 必須科目である。授業態度も評価の対象とする。単位を取得するには前提条件として授業実施回数の3分の2以上の出席を要する。課題については、教員の指示により適宜提出すること。</p>	<p>う。</p> <p>(古場一哲、飛奈卓郎、石見百江、竹内昌平、大曲勝久)</p> <p><u><地域創生学特講に対応する主なテーマ：地域社会の健康維持、地域社会における生活と経済></u></p> <p>【成績の評価方法】 <u>講義の理解度</u>をレポートにて評価する。また、検討結果の発表と討論態度も<u>評価の対象となる</u>。</p> <p>【授業の特徴】 <u>大学院担当教員のオムニバス形式による授業、メディア授業。</u> <u>課題については、教員の指示により適宜提出する。</u></p> <p>【履修上の注意等（履修条件等）】 必須科目である。授業態度も評価の対象とする。単位を取得するには前提条件として授業実施回数の3分の2以上の出席を要する。</p>
---	---

(新旧対照表)「情報セキュリティ特講」のシラバス

新	旧
<p>【授業概要とテーマ】 地域課題の解決のための基盤技術である情報セキュリティの観点から適用する6つの主題について基礎理解を深化させる。各主題においては、地域課題への適用を念頭に置いて講義をすすめる。各主題は以下の通りである。 (A)ネットワークセキュリティ、(B)暗号応用、(C)生体認証、(D)時系列データ解析、(E)セキュリティバイデザイン、(F)制御セキュリティ</p> <p>【到達目標】 1. 情報セキュリティにおける6つの技術テーマについて基礎を説明でき、受講生の専門テーマ以外のセキュリティ技術について理解する。 2. 情報セキュリティ関連技術の地域社会マネジメント学、及び、栄養健康学への適用事例を挙げることが出来る。</p> <p>【授業計画】 ネットワークセキュリティ (1) インターネット番号資源の管理を演習を含め学び、インターネットに接続する地域としての特性を考慮しつつ、大規模ネットワークのセキュリティを扱う。</p> <p>ネットワークセキュリティ (2) グローバルインターネットと地域折り返しのトラフィックの違いをセキュリティの観点から解説し学ぶ。</p>	<p>【授業概要とテーマ】 <u>情報セキュリティにおける5つの主題</u>について基礎理解を深化させる。 (A)制御セキュリティ、(B)暗号応用、(C)ネットワークセキュリティ、(D)時系列データ解析、(E)生体認証</p> <p>【到達目標】 1. 情報セキュリティにおける<u>5つの主題</u>について基礎を説明出来る。 2. 地域社会マネジメント学、及び、栄養健康学への適用事例を挙げることが出来る。</p> <p>【授業計画】 制御セキュリティ (1) <u>セキュリティ領域における制御セキュリティの適用領域を理解する。</u></p> <p>制御セキュリティ (2) <u>制御セキュリティ特有のセキュリティ機能、課題およびセキュリティ対策について理解する。</u></p>

<p>ネットワークセキュリティ (3) 分散型サービス不能攻撃 (DDoS 攻撃) の現状を学び、エンドネットワークとしての地域特性を解説する。</p> <p>ネットワークセキュリティ (4) セキュリティインシデントの管理運用におけるインシデントレスポンの現状について解説する。</p> <p>ネットワークセキュリティ (5) セキュリティインシデントの管理運用における課題とその対処の科学的アプローチについて解説する。</p> <p>暗号応用 (1) 離島医療などの地域社会特有の通信需要を情報セキュリティの観点から理解し、対策の基本である対称鍵暗号および鍵共有等を学ぶ。</p> <p>暗号応用 (2) 暗号応用 (1) に引き続き、対策の基本である公開鍵、本人認証、及び、デジタル署名等を学ぶ。</p> <p>生体認証 (1) 生体認証の基本的な概念を中心に、生体認証の手法や地域社会における取り組みについて学ぶ。</p>	<p>制御セキュリティ (3) <u>制御セキュリティ領域における攻撃事例、対策事例を学ぶ。</u></p> <p>暗号応用 (1) <u>鍵共有、及び、対称鍵暗号を扱う。</u></p> <p>暗号応用 (2) <u>公開鍵、及び、本人認証を扱う。</u></p> <p>暗号応用 (3) <u>デジタル署名を扱う。</u></p> <p>ネットワークセキュリティ (1) <u>インターネット番号資源の管理とその運用状況を演習を含め学び、インターネット基盤セキュリティを学ぶ上での前提条件を知識として学習する。これらの情報を基に、キャリア、ISP、エンタープライズレベルでの番号資源のセキュリティを扱う。</u></p> <p>ネットワークセキュリティ (2) <u>セキュリティの CIA (Confidentiality、Integrity、Availability) とインターネットについて、抽象概念と現実の状況を解説し、プラクティカルな取り扱いを学習する。学習した知識を活用し、今起こっているセキュリティインシデントを分析する手法を</u></p>
---	---

<p>生体認証（２）</p> <p>生体認証にて本人の識別に用いる機械学習法について学び、その課題を含む地域課題の解決法についてディスカッションを行う。</p>	<p><u>扱う。</u></p> <p><u>ネットワークセキュリティ（３）</u></p> <p><u>ネットワークセキュリティを脅かす脅威の中から、分散型サービス不能攻撃（DDoS 攻撃）の現状を学びその対策と対策の困難度を議論形式で知識を深める。第（３）回では DDoS 攻撃の普遍的な手法から近代的な手法を扱う。</u></p>
<p>時系列データ解析（１）</p> <p>時系列解析に用いる基本的なモデルおよび適時地域課題への適用事例を学ぶ。特に、モンテカルロ法での実装に力点を置き、既存のシミュレーションモデルをプラグインすることで全体の解析系を構成できることを理解させる。</p>	<p><u>セキュリティバイデザインとモデリング（１）</u></p> <p><u>セキュリティバイデザインの観点から、プロセスのモデリングについて学ぶ。</u></p>
<p>時系列データ解析（２）</p> <p>事前分布の設計やアルゴリズムの並列化など推定性能を確保するための実装上の技術を紹介する。</p>	<p><u>セキュリティバイデザインとモデリング（２）</u></p> <p><u>セキュリティバイデザインの観点から、厳密な仕様の記述に効果的な 数理的モデリングについて学ぶ。</u></p>
<p>セキュリティバイデザインとモデリング（１）</p> <p>セキュリティバイデザインの観点から、プロセスのモデリングについて学ぶ。地域課題解決を例題にシステムエンジニアリングでのモデリングについて学ぶ。</p>	<p><u>セキュリティバイデザインとモデリング（３）</u></p> <p><u>セキュリティバイデザインの観点から、システムエンジニアリングでのモデリングについて学ぶ。</u></p>
<p>セキュリティバイデザインとモデリング（２）</p> <p>セキュリティバイデザインの観点から、地域課題解決を例題に厳密な仕様の記述に</p>	<p><u>生体認証（１）</u></p> <p><u>生体認証の基本的な概念を中心に、生体認証の手法やその課題について学ぶ。</u></p>

<p>効果的な数理的モデリングについて学ぶ。</p> <p>制御セキュリティ（１） セキュリティ領域における制御セキュリティの適用領域と、安全・安心な地域社会の形成において制御セキュリティが果たすべき役割について理解する。</p> <p>制御セキュリティ（２） 制御セキュリティ特有のセキュリティ機能，課題およびセキュリティ対策について理解し、攻撃事例・対策事例について学び、地域課題の解決に向けた技術の活用能力を養う。</p> <p>【成績評価の方法】 レポート（講義の理解度を評価）・・・８０％ ディスカッション（発言内容と参加姿勢を評価）・・・２０％</p>	<p><u>生体認証（２）</u> <u>生体認証にて本人の識別に用いる機械学習法について学び、その課題や解決法についてディスカッションを行う。</u></p> <p><u>生体認証（３）</u> <u>生体認証の今後の在り方について、ディスカッションを行う。</u></p> <p>【成績評価の方法】 <u>授業への参加状況及び修得状況により評価する。</u></p>
---	---

(新旧対照表)「人間情報科学特講」のシラバス

新	旧
<p>【授業概要とテーマ】 地域情報工学における人間中心システムの構築のための技術要素として人間情報科学における5つの主題について基礎理解を深化させる。 (A)地理情報処理、(B)データベース (DB) 技術、(C)観光情報サービス、(D)色彩情報、(E)感性情報処理</p> <p>【到達目標】 1. 略 2. 地域課題に対して、地域社会マネジメント学、及び、栄養健康学に関する<u>適用想定事例</u>を挙げることが出来る。</p> <p>【授業計画】 地理情報処理 (1) 空間データと地理情報システムについて学び、地域課題への適用事例を紹介する。</p> <p>地理情報処理 (2) 点パターン分析とネットワーク分析について学び、地域課題への適用事例を紹介する。</p> <p>地理情報処理 (3) 空間相関分析と空間補間について学び、地域課題への適用事例を紹介する。</p> <p>データベース (DB) 技術 (1) DB システムやデータモデルについて学ぶ。</p>	<p>【授業概要とテーマ】 人間情報科学における5つの主題について基礎理解を深化させる。 (A)地理情報処理、(B)データベース (DB) 技術、(C)観光情報サービス、(D)色彩情報、(E)感性情報処理</p> <p>【到達目標】 1. 略 2. 地域社会マネジメント学、及び、<u>栄養健康学への適用事例</u>を挙げることが出来る。</p> <p>【授業計画】 地理情報処理 (1) 空間データと地理情報システムについて学ぶ。</p> <p>地理情報処理 (2) 点パターン分析とネットワーク分析について学ぶ。</p> <p>地理情報処理 (3) 空間相関分析と空間補間について学ぶ。</p> <p>データベース (DB) 技術 (1) <u>リレーショナル型 DB の基本</u>を学ぶ。具体的には、<u>関係代数と集合演算、関係代数と関係演算、インデックスとビュー、ロックとトランザクション</u>などについて学ぶ。</p>

<p>データベース (DB) 技術 (2)</p> <p>代表的な設計図 (ER 図) による DB 設計・DB 構築について、地域の課題への適用例を交えて学ぶ。</p> <p>データベース (DB) 技術 (3)</p> <p>DB 標準言語 (SQL) とその他の方法での DB データ照会について、地域の課題への適用例を交えて学ぶ。</p> <p>略</p>	<p>データベース (DB) 技術 (2)</p> <p><u>リレーショナル型 DB のデータの定義 (DDL)・データの操作 (DML)・DB のコントロール (DCL) について学ぶ。</u></p> <p>データベース (DB) 技術 (3)</p> <p><u>DB 運用・管理の基本を学ぶ。具体的には、DB のバックアップ、ユーザー・権限の管理、DB サーバーの監視、DB のセキュリティなどについて学ぶ。</u></p> <p>略</p>
<p>色彩情報 (1)</p> <p>色彩理論の概説：色知覚のメカニズム、色彩調和論、表色系とカラースペース、色覚特性等、色彩情報に係る主要理論を俯瞰し、地域における課題事例を紹介する。</p> <p>色彩情報 (2)</p> <p>情報技術と色彩：デジタル空間における色彩情報の取扱手法について、色度測定、カラープロファイル等を用いて習得し、地域課題に対する活用法を紹介する。</p>	<p>色彩情報 (1)</p> <p>色彩理論の概説：色知覚のメカニズム、色彩調和論、表色系とカラースペース、色覚特性等、色彩情報に係る主要理論を俯瞰する。</p> <p>色彩情報 (2)</p> <p>情報技術と色彩：デジタル空間における色彩情報の取扱手法について、色度測定、カラープロファイル等を用いて習得する。</p>
<p>色彩情報 (3)</p> <p>主観情報処理と色彩：色彩情報が人間に及ぼす影響を分析するためのアプローチ方法として、印象評価データの定量化と解析について学び、地域課題への適用方法を紹介する。</p> <p>感性情報処理 (1)</p> <p>感覚・感性を測定するための心理学的手法について、また、感性の指標化・定量化を目的とした測定データに対する統計解析手</p>	<p>色彩情報 (3)</p> <p>主観情報処理と色彩：色彩情報が人間に及ぼす影響を分析するためのアプローチ方法として、印象評価データの定量化と解析について<u>知る</u>。</p> <p>感性情報処理 (1)</p> <p><u>感性を測定するための心理学的手法について事例を交えつつ学ぶ。</u></p>

<p>法についてそれぞれ学ぶ。</p> <p>感性情報処理（２） 定量化した感性と対象の物理量との関係性をモデル化する機械学習手法について学ぶ。</p> <p>感性情報処理（３） これまでに学んだ感性情報処理の知識を用い、地域社会における QOL（生活の質）に直結する心の豊かさ（感性価値）をもたらす方法について、実例を交え学ぶ。</p> <p>【成績評価の方法】 レポート（講義の理解度を評価）・・・８０％ ディスカッション（参加姿勢も評価）・・・ ２０％</p>	<p>感性情報処理（２） <u>感性の指標化・定量化を目的とした測定データに対する統計解析手法</u>について学ぶ。</p> <p>感性情報処理（３） <u>定量化した感性と対象の物理量との関係性をモデル化する機械学習手法</u>について学ぶ。</p> <p>【成績評価の方法】 <u>授業への参加状況及び修得状況により評価する。</u></p>
---	---

(新旧対照表)「基礎栄養科学特講」のシラバス

新	旧
<p>【授業概要とテーマ】</p> <p>基礎栄養科学分野を担当する全教員がその専門的な立場からオムニバス方式で自分の専門領域について講義し、「健康と栄養科学・生命科学」に関する基礎研究領域についての幅広い高度な専門領域の理解を深めることによって、特別研究（Ⅰ～Ⅲ）の中で行う研究の位置づけや他の研究との関連性をより明確にすると共に、研究者としての資質向上に資することを目的とする。さらにこれらの各専門領域の基礎研究が地域の活性化にどのように貢献しうるかについての事例の提示やディスカッションを含めた講義も行う。</p> <p>【到達目標】</p> <p>1) 基礎栄養科学領域<u>研究</u>の全体的な動向が理解でき、地域の健康維持・増進や活性化につながる方策についても考えることができる。</p> <p>2) 略</p> <p>【授業計画】</p> <p>食品衛生学（1）</p> <p>栄養健康科学における食品衛生学分野の研究手法や研究動向および地域の活性化につながる方策について基礎研究の側面から考究する。</p> <p>細胞生化学（1）</p> <p>栄養健康科学における細胞生化学分野の研究手法や研究動向および地域の活性化につながる方策について基礎研究の側面から考究する。</p>	<p>【授業概要とテーマ】</p> <p>基礎栄養科学分野を担当する全教員がその専門的な立場からオムニバス方式で自分の専門領域について講義し、「健康と栄養科学・生命科学」に関する基礎研究領域についての幅広い高度な専門領域の理解を深めることによって、特別研究（Ⅰ～Ⅲ）の中で行う研究の位置づけや他の研究との関連性をより明確にすると共に、研究者としての資質向上に資することを目的とする。</p> <p>【到達目標】</p> <p>1) 基礎栄養科学領域の全体的な動向が理解できる。</p> <p>2) 略</p> <p>【授業計画】</p> <p>食品衛生学（1）</p> <p><u>栄養科学</u>における食品衛生学分野の研究手法や研究動向について基礎研究の側面から考究する。</p> <p>細胞生化学（1）</p> <p><u>栄養科学</u>における細胞生化学分野の研究手法や研究動向について基礎研究の側面から考究する。</p>

<p>食品機能学（１） 栄養健康科学における食品機能学分野の研究手法や研究動向および地域の活性化につながる方策について基礎研究の側面から考究する。</p> <p>有機化学（１） 栄養健康科学における有機化学分野の研究手法や研究動向および地域の活性化につながる方策について基礎研究の側面から考究する。</p> <p>代謝栄養学（１） 栄養健康科学における代謝栄養学分野の研究手法や研究動向および地域の活性化につながる方策について基礎研究の側面から考究する。</p> <p>栄養生理学（１） 栄養健康科学における栄養生理学分野の研究手法や研究動向および地域の活性化につながる方策について基礎研究の側面から考究する。</p> <p>解剖生理学（１） 栄養健康科学における解剖生理学分野の研究手法や研究動向および地域の活性化につながる方策について基礎研究の側面から考究する。</p> <p>食品衛生学（２） 栄養健康科学における食品衛生学分野の研究手法や研究動向および地域の活性化につながる方策について基礎研究の側面から考究する。</p>	<p>食品機能学（１） <u>栄養科学</u>における食品機能学分野の研究手法や研究動向について基礎研究の側面から考究する。</p> <p>有機化学（１） <u>栄養科学</u>における有機化学分野の研究手法や研究動向について基礎研究の側面から考究する。</p> <p>代謝栄養学（１） <u>栄養科学</u>における代謝栄養学分野の研究手法や研究動向について基礎研究の側面から考究する。</p> <p>栄養生理学（１） <u>栄養科学</u>における栄養生理学分野の研究手法や研究動向について基礎研究の側面から考究する。</p> <p>解剖生理学（１） <u>栄養科学</u>における解剖生理学分野の研究手法や研究動向について基礎研究の側面から考究する。</p> <p>食品衛生学（２） <u>栄養科学</u>における食品衛生学分野の研究手法や研究動向について基礎研究の側面から考究する。</p>
---	---

<p>細胞生化学（２） 栄養健康科学における細胞生化学分野の研究手法や研究動向および地域の活性化につながる方策について基礎研究の側面から考究する。</p> <p>食品機能学（２） 栄養健康科学における食品機能学分野の研究手法や研究動向および地域の活性化につながる方策について基礎研究の側面から考究する。</p> <p>有機化学（２） 栄養健康科学における有機化学分野の研究手法や研究動向および地域の活性化につながる方策について基礎研究の側面から考究する。</p> <p>代謝栄養学（２） 栄養健康科学における代謝栄養学分野の研究手法や研究動向および地域の活性化につながる方策について基礎研究の側面から考究する。</p> <p>栄養生理学（２） 栄養健康科学における栄養生理学分野の研究手法や研究動向および地域の活性化につながる方策について基礎研究の側面から考究する。</p> <p>解剖生理学（２） 栄養健康科学における解剖生理学分野の研究手法や研究動向および地域の活性化につながる方策について基礎研究の側面から考究する。</p>	<p>細胞生化学（２） <u>栄養科学</u>における細胞生化学分野の研究手法や研究動向について基礎研究の側面から考究する。</p> <p>食品機能学（２） <u>栄養科学</u>における食品機能学分野の研究手法や研究動向について基礎研究の側面から考究する。</p> <p>有機化学（２） <u>栄養科学</u>における有機化学分野の研究手法や研究動向について基礎研究の側面から考究する。</p> <p>代謝栄養学（２） <u>栄養科学</u>における代謝栄養学分野の研究手法や研究動向について基礎研究の側面から考究する。</p> <p>栄養生理学（２） <u>栄養科学</u>における栄養生理学分野の研究手法や研究動向について基礎研究の側面から考究する。</p> <p>解剖生理学（２） <u>栄養科学</u>における解剖生理学分野の研究手法や研究動向について基礎研究の側面から考究する。</p>
---	---

<p>【成績評価の方法】 プレゼンテーション（第 15 回講義時の内容）・・・60％ ディスカッション（質疑応答含む）・・・40％</p> <p>【関連科目】 特別研究Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、実践栄養科学特講および「専攻共通科目」全般</p>	<p>【成績評価の方法】 <u>各回講義時の質問の有無（10％）、第 15 回講義時のプレゼンテーションの内容（60％）とそのディスカッション時の状況（30％）から総合的に評価する。</u></p> <p>【関連科目】 特別研究Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、実践栄養科学特講</p>
--	--

(新旧対照表)「実践栄養科学特講」のシラバス

新	旧
<p>【授業概要とテーマ】</p> <p>実践栄養科学分野を担当する全教員がその専門的な立場からオムニバス方式で自分の専門領域について講義し、「健康と栄養、食生活、運動」に関する実践研究領域についての幅広い高度な専門領域の理解を深めることによって、特別研究（Ⅰ～Ⅲ）の中で行う研究の位置づけや他の研究との関連性をより明確にすると共に、研究者としての資質向上に資することを目的とする。さらにこれらの各専門領域の実践研究を推進する上でどのような地域との連携が必要かについての事例の提示やディスカッションを含めた講義も行う。</p> <p>【到達目標】</p> <p>1) 実践栄養科学領域研究の全体的な動向を理解し、地域の健康維持・増進と食生活・運動との関連や効率的な情報収集・解析、発振の手法についても理解でき、地域の活性化につながる方策について考えることができる。</p> <p>2) 略</p> <p>【授業計画】</p> <p>臨床栄養学（1）</p> <p>栄養健康科学における臨床栄養学分野の研究手法や研究動向および地域の活性化につながる方策について実践研究の側面から考究する。</p> <p>生活習慣病予防学（1）</p> <p>栄養健康科学における生活習慣病予防学分野の研究手法や研究動向および地域の活</p>	<p>【授業概要とテーマ】</p> <p>実践栄養科学分野を担当する全教員がその専門的な立場からオムニバス方式で自分の専門領域について講義し、「健康と栄養、食生活、運動」に関する<u>基礎</u>研究領域についての幅広い高度な専門領域の理解を深めることによって、特別研究（Ⅰ～Ⅲ）の中で行う研究の位置づけや他の研究との関連性をより明確にすると共に、研究者としての資質向上に資することを目的とする。</p> <p>【到達目標】</p> <p>1) 実践栄養科学領域の全体的な動向が理解できる。</p> <p>2) 略</p> <p>【授業計画】</p> <p>臨床栄養学（1）</p> <p><u>栄養科学</u>における臨床栄養学分野の研究手法や研究動向について実践研究の側面から考究する。</p> <p>生活習慣病予防学（1）</p> <p><u>栄養科学</u>における生活習慣病予防学分野の研究手法や研究動向について実践研究の</p>

<p>性化につながる方策について実践研究の側面から考究する。</p> <p>健康体力科学（１） 栄養健康科学における健康体力科学分野の研究手法や研究動向および地域の活性化につながる方策について実践研究の側面から考究する。</p> <p>栄養管理学（１） 栄養健康科学における栄養管理学分野の研究手法や研究動向および地域の活性化につながる方策について実践研究の側面から考究する。</p> <p>給食管理学（１） 栄養健康科学における給食管理学分野の研究手法や研究動向および地域の活性化につながる方策について実践研究の側面から考究する。</p> <p>栄養疫学（１） 栄養健康科学における栄養疫学分野の研究手法や研究動向におよび地域の活性化につながる方策について実践研究の側面から考究する。</p> <p>臨床栄養学（２） 栄養健康科学における臨床栄養学分野の研究手法や研究動向および地域の活性化につながる方策について実践研究の側面から考究する。</p> <p>生活習慣病予防学（２） 栄養健康科学における生活習慣病予防学分野の研究手法や研究動向および地域の活</p>	<p>側面から考究する。</p> <p>健康体力科学（１） <u>栄養科学</u>における健康体力科学分野の研究手法や研究動向について実践研究の側面から考究する。</p> <p>栄養管理学（１） <u>栄養科学</u>における栄養管理学分野の研究手法や研究動向について実践研究の側面から考究する。</p> <p>給食管理学（１） <u>栄養科学</u>における給食管理学分野の研究手法や研究動向について実践研究の側面から考究する。</p> <p>栄養疫学（１） <u>栄養科学</u>における栄養疫学分野の研究手法や研究動向について実践研究の側面から考究する。</p> <p>臨床栄養学（２） <u>栄養科学</u>における臨床栄養学分野の研究手法や研究動向について実践研究の側面から考究する。</p> <p>生活習慣病予防学（２） <u>栄養科学</u>における生活習慣病予防学分野の研究手法や研究動向について実践研究の</p>
--	---

<p>性化につながる方策について実践研究の側面から考究する。</p> <p>健康体力科学（２） 栄養健康科学における健康体力科学分野の研究手法や研究動向および地域の活性化につながる方策について実践研究の側面から考究する。</p> <p>栄養管理学（２） 栄養健康科学における栄養管理学分野の研究手法や研究動向および地域の活性化につながる方策について実践研究の側面から考究する。</p> <p>給食管理学（２） 栄養健康科学における給食管理学分野の研究手法や研究動向および地域の活性化につながる方策について実践研究の側面から考究する。</p> <p>栄養疫学（２） 栄養健康科学における栄養疫学分野の研究手法や研究動向および地域の活性化につながる方策について実践研究の側面から考究する。</p> <p>臨床栄養学（３） 栄養健康科学における臨床栄養学分野の研究手法や研究動向および地域の活性化につながる方策について実践研究の側面から考究する。</p> <p>生活習慣病予防学（３） 栄養健康科学における生活習慣病予防学分野の研究手法や研究動向および地域の活</p>	<p>側面から考究する。</p> <p>健康体力科学（２） <u>栄養科学</u>における健康体力科学分野の研究手法や研究動向について実践研究の側面から考究する。</p> <p>栄養管理学（２） <u>栄養科学</u>における栄養管理学分野の研究手法や研究動向について実践研究の側面から考究する。</p> <p>給食管理学（２） <u>栄養科学</u>における給食管理学分野の研究手法や研究動向について実践研究の側面から考究する。</p> <p>栄養疫学（２） <u>栄養科学</u>における栄養疫学分野の研究手法や研究動向について実践研究の側面から考究する。</p> <p>臨床栄養学（３） <u>栄養科学</u>における臨床栄養学分野の研究手法や研究動向について実践<u>実践</u></p> <p>生活習慣病予防学（３） <u>栄養科学</u>における生活習慣病予防学分野の研究手法や研究動向について実践研究の</p>
---	--

<p>性化につながる方策について実践研究の側面から考究する。</p> <p>【成績評価の方法】 プレゼンテーション（第 15 回講義時の内容）・・・60% ディスカッション（質疑応答含む）・・・40%</p>	<p>側面から考究する。</p> <p>【成績評価の方法】 <u>各回講義時の質問の有無(10%)、第 15 回講義時のプレゼンテーションの内容(60%)とそのディスカッション時の状況(30%)から総合的に評価する。</u></p>
---	--

(新)

長崎県立大学地域創生研究科地域創生専攻（博士後期課程）カリキュラム・マップ

人材育成の目標	<p>【全体】 俯瞰的かつ多面的な視点を持ち、領域横断的な専門応用力を備えた人材を養成するという本学修士課程の目標に対して、地域創生専攻博士後期課程では、修士課程で培った専門知識と技術を一層高度化させ、自らの専門領域の高度な研究能力を身に付け、さらに他領域との連携を図る視点を養うことで本学独自の教育・研究体制による地域貢献に資するための高度な知識を修得させる。同時に学術研究において高い水準の先端研究を自立して行える能力を身に付けることで、高い倫理性と豊かな国際性を併せ持った自立した高度な研究能力を有する人材を養成することを主たる目標とする。具体的には、地域経済、経営、メディア、情報工学、栄養健康科学に関わる自らの専門領域に関して高度な専門性をもつうえで、他の専門分野と協働して実践的な問題を解決して地域で活躍し得る高度な研究能力を有する人材の養成を行う。</p>
	<p>【地域社会マネジメント分野】 地域社会の発展に関する最新の知識や技術に関する実践的知見を持ち、様々なメディアやネットワークを駆使してグローバル社会の諸問題を科学的に把握し、地域産業、地域経営、地域計画、メディア社会、グローバル社会などの専門的見地から地域の課題を整理して、課題の解決に向けて具体的方策を提案することができる研究能力を有する地域リーダーを養成する。また、地域情報工学分野及び人間栄養健康科学分野の課題に対する社会科学的な基盤となる、持続可能な地域社会の形成を可能とする高度な研究能力や政策立案力の涵養も目的とする。また、人口減少や地域力低下が懸念される長崎県において、持続可能な社会の実現のために中長期的な社会のグランドデザインを構築できる研究者と行政機関の担当者としての役割を兼ね備えた研究能力のある高度な専門業務を行う人材の養成に取り組む。さらに、地域社会の持続的な発展を図るために、地域社会マネジメント分野の知識のみならず、地域住民のQOL向上や健康増進の必要性と、地域社会において産業の発展と高度化を支える情報技術の動向を理解できる人材の養成も目標とする。</p>
	<p>【地域情報工学分野】 地域社会マネジメント分野及び人間栄養健康科学分野の課題に対する情報工学的な基盤となる、サイバー空間及びその膨大なデータ（ビッグデータ）の処理を実現する高度な研究能力や技術開発力を有する人材を養成する。すなわち、先進的情報基盤技術を用い、地域産業やその就労形態及び生活様式を革新する能力、また、データと人間の関係性に価値創造を起こす能力を涵養し、研究・開発分野を深耕する高度な研究能力を有する人材を養成する。 具体的には、想定したサプライチェーン、工場を含む制御システム、IoT機器などを有機的に連携させる設計・構築技術、暗号化や本人認証とプライバシー保護の技術とセキュリティインシデントオペレーションのノウハウを活用し、信頼される地域社会の活性化や健康増進の情報基盤を築く高度な研究能力や技術開発力を有する人材を養成する。さらに、地域社会マネジメント分野及び人間栄養健康科学分野における新たなサービスによる価値創造を実現する情報基盤を構築するため、生体認証技術、画像・色彩・感性等の人間情報科学の分析によるヒューマンインターフェース等の技術、データベースとデータ解析による知見抽出の技術、観光情報の展開と活用の技術等、「人間に寄り添い価値を提供する情報工学」の研究に取り組む高度な研究能力を有する人材を養成する。</p>
	<p>【人間栄養健康科学分野】 生命科学と栄養科学の本質に迫る基礎栄養科学領域やヒトの栄養状態と健康維持・増進に関する実践栄養科学領域において高度な研究能力や実践的能力を有し、健康の保持・増進や質の高い食生活、栄養状態の改善などを科学的に理解・追究することにより地域社会に貢献できる人材を養成する。また、本学は地域に根ざした公立大学であることに鑑み、地域の特性を生かした食品開発を実践することで、島嶼を含む地域活性化に資する研究テーマにも重点を置く。さらに、地域の健康増進施策を推進するためには、栄養健康科学分野だけにとどまらず、個人の生活環境や遺伝的素因など多岐にわたる関連性の解明など、様々な情報やデータを収集・解析する能力も必要となることから、地域連携をマネジメントする能力や最新の情報処理能力をもつ人材の養成も必要となる。</p>

<p>ディプロマ・ポリシー（DP） （修了要件・学位授与方針）</p>	<p>【全体】 DP1:自らの専門分野に関する高度な知識や技術を身に付け、課題を把握し分析する能力と、課題の解決に向けて遂行する能力 DP2:地域社会の種々の課題解決に向けて、自らの専門分野だけでなく、他分野の専門知識を一定程度身に付け、広い視野に立って他分野の専門家と協働できる能力 DP3:高度な専門研究を推進し、自らの研究成果を国内外に発信できる能力</p>
	<p>【地域社会マネジメント分野】 DP1-1:持続可能な地域社会を形成するうえでの諸課題を、地域産業、地域経営、地域計画、メディア社会、グローバル社会などの専門的見地から分析し、解決に向けて研究を遂行できる能力 DP1-2:地域資源を有機的に結合する多様なネットワークの形成に向けて、地域社会マネジメント分野における専門的知識の獲得に加え、地域情報工学分野や人間栄養健康科学分野の課題にも目を向け、他分野の専門家と協働し、かつマネジメントできる能力 DP1-3:広い視野と長期的な展望のもとで高い倫理性と責任感を持って高度な専門研究を推進し、自らの研究成果を国内外に発信できる能力</p>
	<p>【地域情報工学分野】 DP2-1:持続可能な地域社会を形成するうえでの諸課題を、情報基盤の設計・構築と安定運用の技術、人間情報科学の分析によるヒューマンインターフェース等の技術、データベースとデータ解析などの技術から分析し、解決に向けて研究を遂行できる能力 DP2-2:地域課題の解決に向けて、地域情報工学分野における専門的知識の獲得に加え、地域社会マネジメント分野や人間栄養健康科学分野の課題にも目を向け、他分野の専門家と協働し、かつマネジメントできる能力 DP2-3:広い視野と長期的な展望のもとで高い倫理性と責任感を持って高度な専門研究を推進し、自らの研究成果を国内外に発信できる能力</p>
	<p>【人間栄養健康科学分野】 DP3-1: 持続可能な地域社会を形成するうえでの諸課題を、栄養、食生活、運動、医療などの専門的知見から分析し、解決に向けて研究を遂行できる能力 DP3-2:地域課題の解決に向けて、栄養健康科学領域における専門的知識と技術の獲得に加え、地域社会マネジメント分野や地域情報工学分野の課題にも取り組み、他分野の専門家や研究者と協働し、かつマネジメントできる能力 DP3-3: 広い視野と長期的な展望のもとで高い倫理性と責任感を持って高度な専門研究を推進し、自らの研究成果を国内外に発信できる能力</p>

科目区分	授業科目の名称	配当年次	必要単位	DP1	DP2	DP3	DP 1-1	DP 1-2	DP 1-3	DP 2-1	DP 2-2	DP 2-3	DP 3-1	DP 3-2	DP 3-3	
専攻 共通科目	アカデミックスキル特論	1①	専攻共通科目 6単位修得。	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	地域創生学特講	1①		○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	地域創生学演習	1②		◎	◎	○	○	◎	○	○	◎	○	○	◎	○	○
専門科目	地域マネジメント分野 地域マネジメント特講	1③	専門科目 4単位以上修得。	◎	○	○	◎	○	○		○	○		○	○	
		1③		◎	○	○	◎	○	○		○	○		○	○	
	地域情報工学分野 情報セキュリティ特講	1③		◎	○	○		○	○	◎	○	○			○	○
		1④		◎	○	○		○	○	◎	○	○			○	○
	人間栄養健康科学分野 基礎栄養科学特講	1③		◎	○	○		○	○		○	○		◎	○	○
		1④		◎	○	○		○	○		○	○		◎	○	○
研究指導科目	特別研究Ⅰ	1通	研究指導科目 12単位修得。	◎	○	◎	◎	○	◎	◎	○	◎	◎	○	◎	
	特別研究Ⅱ	2通		◎	○	◎	◎	○	◎	◎	○	◎	◎	○	◎	
	特別研究Ⅲ	3通		◎	○	◎	◎	○	◎	◎	○	◎	◎	○	◎	

◎ : 授業科目がDPに直結しており関連が強い

○ : DPに関する能力形成に関与

長崎県立大学地域創生研究科地域創生専攻（博士後期課程）カリキュラム・マップ

人材育成の目標	<p>【全体】 俯瞰的かつ多面的な視点を持ち、領域横断的な専門応用力を備えた人材を養成するという本学修士課程の目標に対して、地域創生専攻博士後期課程では、修士課程で培った専門知識と技術を一層高度化させ、自らの専門領域の高度な研究能力を身に付け、さらに他領域との連携を図る視点を養うことで本学独自の教育・研究体制による地域貢献に資するための高度な知識を修得させる。同時に学術研究において高い水準の先端研究を自立して行える能力を身につけることで、高い倫理性と豊かな国際性を併せ持った自立した高度な研究能力を有する人材を養成することを主たる目標とする。具体的には、地域経済、経営、メディア、情報工学、栄養健康科学に関わる自らの専門領域に関して高度な専門性をもったうえで、他の専門分野と協働して実践的な問題を解決して地域で活躍し得る高度な研究能力を有する人材の養成を行う。</p>
	<p>【地域社会マネジメント分野】 地域社会の発展に関する最新の知識や技術に関する実践的知見を持ち、様々なメディアやネットワークを駆使してグローバル社会の諸問題を科学的に把握し、地域社会、地域産業、地域計画、地域経営などの専門的見地から地域の課題を整理して、課題の解決に向けて具体的方策を提案することができる研究能力を有する地域リーダーを養成する。また、人口減少や地域力低下が懸念される長崎県において、持続可能な社会の実現のために中長期的な社会のグランドデザインを構築できる研究者と行政機関の担当者としての役割を兼ね備えた研究能力のある高度な専門業務を行う人材の養成に取り組む。さらに、地域社会の持続的な発展を図るために、地域社会マネジメント分野の知識のみならず、地域住民のQOL向上や健康増進の必要性と、地域社会において産業の発展と高度化を支える情報技術の動向を理解できる人材の養成も目標とする。</p>
	<p>【地域情報工学分野】 地域社会マネジメント分野及び人間栄養健康科学分野の課題に対する情報工学的な基盤となる、サイバー空間及びその膨大なデータの処理を実現する高度な研究能力や技術開発力を有する人材を養成する。すなわち、先進的情報基盤技術を用い地域産業やその就労形態及び生活様式を革新する能力、また、データと人間の関係性に価値創造を起こす能力を涵養し、研究・開発分野を深耕する高度な研究能力を有する人材を養成する。 具体的には、インターネット基盤を商流や制御システム及び生体管理の枠組みへ組み込む設計技術、暗号化や本人認証とプライバシー保護の技術、またセキュリティインシデントオペレーションのノウハウを活用し、地域社会の活性化や健康増進の情報基盤を築く高度な研究能力や技術開発力を有する人材を養成する。さらに、地域社会マネジメント分野及び人間栄養健康科学分野における新たなサービスによる価値創造を実現する情報基盤を構築するため、生体認証技術、画像・色彩・感性等の人間情報科学の分析によるヒューマンインターフェース等の技術、データベースとデータ解析による知見抽出の技術、観光情報の展開と活用の技術等、「人間に寄り添い価値を提供する情報工学」の研究に取り組む高度な研究能力を有する人材を養成する。</p>
	<p>【人間栄養健康科学分野】 生命科学と栄養科学の本質に迫る基礎栄養科学領域、実践科学としての人間栄養学の社会的貢献を視点とした実践栄養科学領域の2つの領域についての教育・研究を通し、食と健康科学の統合化を踏まえ、その最新かつ高度な知識や実践的能力を持ち、健康の保持・増進や質の高い食生活、栄養状態の改善などを科学的に理解・追究することにより社会に貢献できる高度専門職業人の養成ならびに教育研究指導者の養成に取り組む。また、本学は地域に根ざした公立大学であることに鑑み、地域の特性を生かした食品開発を実践することで、島嶼を含む地域活性化に資する研究テーマにも重点を置いて、学生の指導や人材の養成を行う。さらに、健康増進施策を推進するためには、健康科学分野だけにとどまらず、個人の生活環境や遺伝的素因など多岐にわたる関連性ととの解明が重要で、地域や個人に対応するためには、様々な情報やデータを収集・解析する能力も必要となることから、地域連携をマネジメントする能力や最新の情報処理能力をもつ人材の養成も必要となる。</p>

(旧)

ディプロマ・ポリシー (DP) (修了要件・学位授与方針)	【全体】 DP1: 自らの専門分野に関する高度な知識や技術を身につけ、課題を把握し分析する能力と、課題の解決に向けて遂行する能力 DP2: 地域社会の種々の課題解決に向けて、自らの専門分野だけでなく、他分野の専門知識を一定程度身につけ、広い視野に立って他分野の専門家と協働できる能力 DP3 自らの研究成果を国内外に発信し、高度な専門研究を推進できる能力
	【地域社会マネジメント分野】 DP1-1: 地域社会、地域産業、地域計画、地域経営などに関する専門的な理解を通じて地域の諸課題を整理し、定量的・定性的に分析して課題の解決に向けて提案する能力 DP1-2: 地域資源の有機的な結合を可能にするネットワークの形成に向けて高度に専門的な知見を獲得し、その構築を可能とする能力 DP1-3: 広い視野と探求及び長期的な展望のもと、グローバルな地域社会における様々な組織の環境適応を可能にする高度な分析及び提案能力
	【地域情報工学分野】 DP2-1: 情報工学の専門家として情報社会における課題を自ら発見し、解決や価値創造を遂行する能力 DP2-2: 情報工学において広い視野に立った学術的価値や社会的価値のある新たな発見をし、評価する能力 DP2-3: 国内外の実務家や研究者とコミュニケーションを取り、研究開発の意見交換や共同研究のネットワークを構築し、自ら発信する能力
	【人間栄養健康科学分野】 DP3-1: 「食と健康」に対し、栄養、食生活、運動、医療に関する専門的な知識や技術を修得して、基礎栄養科学分野や実践栄養科学分野等において国際的なレベルで高度な専門研究を推進できる研究者としての能力 DP3-2: 健康の保持・増進の視点に立ち、次世代の専門業務を担う人材を育てる管理栄養士養成施設等の高等教育研究機関の教育研究指導者としての能力 DP3-3: 保健・医療・福祉分野で活躍できる専門業務を担う人材としての高度な知識を有し、実践できる能力及びこれらの職域で指導者（責任者）として人材教育ができる能力

(旧)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	必要単位	DP1	DP2	DP3	DP 1-1	DP 1-2	DP 1-3	DP 2-1	DP 2-2	DP 2-3	DP 3-1	DP 3-2	DP 3-3	
専攻 共通科目	アカデミックスキル特論	1①	専攻共通科目 6単位修得。	◎	◎	◎	○	○	◎	■	■	○	◎	◎	◎	
	地域創生学特講	1①		◎	◎	◎	○	○	◎	○	○	■	○	○	○	
	地域創生学演習	1②		◎	◎	◎	○	○	◎	○	○	■	○	○	○	
専門科目	地域マネジメント分野 地域マネジメント特講	1③	専門科目 4単位以上修得。	◎	◎	○	◎	◎	○	■	■	○	■	■	○	
		1③		◎	◎	○	◎	◎	○	■	■	○	■	■	○	
	地域情報工学分野 情報セキュリティ特講	1③		○	○	■	■	○	○	◎	◎	○	○	■	■	○
		1④		○	○	■	■	○	○	◎	◎	○	○	■	■	○
	人間栄養健康科学分野 基礎栄養科学特講	1③		◎	○	◎	■	■	○	■	■	○	○	◎	◎	○
		1④		◎	○	◎	■	■	○	■	■	○	○	◎	◎	◎
研究指導科目	特別研究Ⅰ	1通	研究指導科目 12単位修得。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	特別研究Ⅱ	2通		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	特別研究Ⅲ	3通		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	

◎ : 授業科目がDPに直結しており関連が強い

○ : DPに関する能力形成に関与